

平成23年度 河川レンジャー活動報告 （平成23年10月～平成24年1月）

平成24年2月

木津川管内河川レンジャー 山村 武正
福井 波恵
田中 実知世
山田 信人

目 次

○山村河川レンジャー活動実施報告

- 1. 第4回防賀川ワークショップ 1
- 2. 京田辺市民文化祭 3
- 3. 京田辺市せせらぎまつり展示 5
- 4. 七草摘み 7

○福井河川レンジャー活動実施報告

- 5. 親子川の学校in上狛川 9
- 6. 木津川台小ボトルアクアリウム 12
- 7. 親子川の学校閉校式in不動川 14
- 8. 木津川市環境まつりボトルアクアリウム 17

○田中河川レンジャー活動実施報告

- 9. 山城大橋ワンドとタマリ魚採り 19
- 10. 浄化センター環境まつり展示 22
- 11. 第二回山城大橋ワンドとタマリ魚採り 25
- 12. 木津川生津 鳥の観察 28
- 13. 上野遊水池を知る 31
- 14. 外来魚駆除啓発展示 35

○山田河川レンジャー活動実施報告

- 15. 親子川の学校in上狛川出前講座 38
- 16. 木津川一斉水ウォッチング 40
- 17. 古川生きもの調査隊出前授業 43
- 18. せいか祭り水質出前授業 45
- 19. 山田川水質ウォッチング 47
- 20. 上狛川水質モニタリング 50

○木津川河川レンジャー連携活動実施報告

- 21. 加茂木津川シンポジウム 52
- 22. 沿川活動団体交流会 55

○河川レンジャー連携活動実施報告

- 23. 京都環境フェスティバル201 59

○山村河川レンジャー活動実施報告

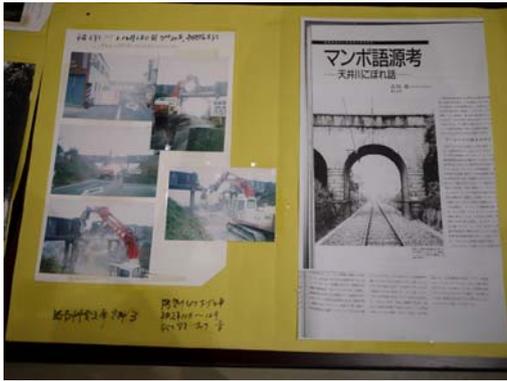
1. 第4回防賀川ワークショップ

・平成23年10月29日(土)

1.1 実施状況

テーマ	第4回防賀川ワークショップ		
担当	木津川出張所管内	山村河川レンジャー	
開催日時	平成23年10月29日(土)13:00~16:30		
参加人数	参加総数	27名	
	一般参加者	21名	大人17名、子ども4名
	河川レンジャー	3名	山村・福井・山田各河川レンジャー
	協力スタッフ	2名	指導スタッフ田中元洋氏
	運営事務局	1名	
スケジュール	13:40	指導スタッフから樹種選定の説明	
	14:42	河川レンジャーも入って樹種選定作業	
	15:32	グループ毎に検討結果の発表	
	15:52	選定結果の集計	
	16:02	レンジャー講評	
実施場所	京田辺市中央公民館		
			

1.2 事前活動

各種資料	<p>近畿地方の樹木表、候補樹木リスト(スタッフ作成) ワークショップニュース</p>  <p>当日会場掲示資料(一部)</p>
関係機関からの支援内容	案内チラシの印刷 700 枚
レンジャーの活動内容	案内立て看板の設置 案内チラシの作製 京都府北土木事務所との折衝 会場借用 地域団体への案内状発送

1.3 活動状況



指導スタッフから樹種選定の説明



レンジャーも入って樹種選定作業



グループ毎に検討結果の発表



選定結果の集計

1.4 意見・課題

参加者からの意見	<p>4回のワークショップの最終回として植樹の樹種を決定まで漕ぎつけられたことはうれしい。</p> <p>4回の連続参加でワークショップについてよくわかった。</p> <p>是非植樹祭が実行できるよう期待している。</p>
今後の課題	<p>樹種決定までよく連続ワークショップを開催出来たと思う</p> <p>京都府や京田辺市の理解が得られるよう更に努力が必要である。これ方が本番で、前途多難である。</p> <p>植樹の後もその後ワークショップを引き続き開催するつもりである。</p>

2. 京田辺市民文化祭

・平成23年11月5日(土)～6日(日)

2.1 実施状況

テーマ	京田辺市市民文化祭		
担当	木津川出張所管内	山村河川レンジャー	
開催日時	平成23年11月5日(土)～6日(日)10:00～15:00		
参加人数	参加総数	781名	
	ブース訪問者	760名	
	河川レンジャー	4名	山村・福井・山田・田中各河川レンジャー
	協力スタッフ	16名	やましる里山の会
	運営事務局	1名	
スケジュール(6日)	10:00	開会	
	12:30	防賀川スタッフによる説明とアンケートの依頼	
	12:30	防賀川植樹樹種アンケートコーナー	
	14:26	レンジャーによる木津川水質の説明	
	15:07	レンジャーブース撤収の打ち合わせ	
実施場所	<p style="text-align: center;">京田辺市中央体育館</p> 		

2.2 事前活動

各種資料	河川レンジャーNews 各号、秋の野鳥観察会(告知らし)
関係機関からの支援内容	広報チラシの印刷
レンジャーの活動内容	事前打ち合わせ会議等が多くある 展示物の企画作成 張出し等多忙

2.3 活動状況



レンジャーによる木津川水質の説明



防賀川スタッフによる説明とアンケートの依頼

2.4 意見・課題

参加者からの意見	里山の会の多方面にわたる活動がよく理解できた。 レンジャー活動の充実が素晴らしい よく活動や調査が取り組まれている 是非楽しい取組に参加したい。 良い展示を見せてもらった。
今後の課題	これまでは展示物を作成できずに苦労したが、里山の会内のサークルによる 展示発表に切り替えると素晴らしい充実したものになった。 更に、サークルや部が発表を頭に入れ、年間活動に取り組むようにしたい。

3. 京田辺市せせらぎまつり展示

・平成23年11月12(土)～13日(日)

3.1 実施状況

テーマ	京田辺市せせらぎまつり		
担当	木津川出張所管内	山村河川レンジャー	
開催日時	平成23年11月12日(土)～13日(日)10:00～15:00		
参加人数	参加総数	354名	
	ブース訪問者		350名
	河川レンジャー		1名
	協力スタッフ		2名
	運営事務局		1名
			山村河川レンジャー
			やましり山山の会
スケジュール	(12日)		
	9:01	会場展示準備	
	9:17	レンジャーによる訪問者への説明	
	9:18	展示物の解説	
	(13日)		
	15:00	展示物の撤収	
実施場所	京田辺市せせらぎホール		

3.2 事前活動

各種資料	山田川水ウォッチング(告知)、秋の野鳥観察会(告知)、河川レンジャーNews
関係機関からの支援内容	特になし
レンジャーの活動内容	事前打ち合わせ会議出席 会場設営に参加 当日説明

3.3 活動状況



レンジャーによる訪問者への説明



展示物の解説

3.4 意見・課題

参加者からの意見	レンジャーの活動がよくわかる展示である。 木津川の様子が詳しく説明されている いつものことですが、木津川には希少植物が沢山生育していることがうれしい。
今後の課題	模擬店への参加も検討したい。 全面的に河川レンジャーコーナーの展示が必要と思う。次年度には取り組みたい。

4. 七草摘み

・平成23年1月6日(金)

4.1 実施状況

テーマ	七草摘みと七草粥を楽しむ会(七草粥は別途オプションイベント)		
担当	木津川出張所管内	山村河川レンジャー	
開催日時	平成23年1月6日(金)9:00~12:00		
参加人数	参加総数	32名	
	一般参加者	13名	大人10名、子ども3名
	河川レンジャー	1名	山村河川レンジャー
	講師	1名	湯川幸子氏(やましり山山の会)
	協力スタッフ	14名	山田河川レンジャー やましり山山の会
	その他 運営事務局	2名 1名	京都新聞、KBS 京都放送
スケジュール	10:32	レンジャーより活動の主旨説明	
	10:38	七草摘みについて講師より注意点説明	
	11:07	古代衣装着用	
	11:10	講師と七草摘みに出発	
	11:16	セリ摘み	
	11:21	ハコベラ摘み	
	11:22	ホトケノザ(コオニタビラコ)摘み	
	11:26	ナズナ(ペンペン草)摘み	
	11:48	囃子唄を唱和し七草刻み	
	12:01	レンジャーと古代火おこし体験	
実施場所	京田辺市京田辺木津川運動公園		

4.2 事前活動

各種資料	当日プログラム、「春の七草」をマスターしよう(レジュメ)、里山の会各種報告、木津川沿川活動団体交流会(告知チラシ)
関係機関からの支援内容	チラシの印刷 500枚
レンジャーの活動内容	<p>前日七草下見、摘草</p> <p>会場設営、イス、机、古代衣装展示、七草の見本展示、マイク設定</p> <p>近鉄新田辺駅からの参加者誘導</p> <p>参加者の受付、挨拶、七草の話、参加者自己紹介</p> <p>七草摘み(古代衣装の着用)</p> <p>七草刻み、囃子唄を歌う</p> <p>感想文を書く、記念撮影</p>

4.3 活動状況



セリ摘み



ナズナ(ペンペン草)摘みと報道カメラ



囃子唄を唱和し七草刻み



河川レンジャーと古代火おこし体験

4.4 意見・課題

参加者からの意見	<p>初心者が10名ほど各地から参加され、七草を摘み取れたことに感謝が寄せられた。</p> <p>冬の寒い中楽しい取組の企画を毎年楽しみに参加している子どもに古代衣装がよく似合った。(上写真参照)</p>
今後の課題	<p>粥を食することがレンジャー事業になじまないため、摘み取るところまでの事業とした。摘み取ること、粥を食することは一体の行事なのだが、摘み取ることで第1部終了、レンジャー主催終了としなければならないところにいささか抵抗を感じている。</p>

○福井河川レンジャー活動実施報告

5. 親子川の学校in上狛川

・平成23年10月2日(日)

5.1 実施状況

テーマ	親子川の学校 in 上狛川		
担当	木津川出張所管内	福井・山田河川レンジャー	
開催日時	平成23年10月2日(日)9:00~12:00		
参加人数	参加総数	72名	
	一般参加者	39名	大人16名、子ども20名、地元参加者3名
	河川レンジャー	2名	福井、山田河川レンジャー
	講師	1名	中 健造氏 (上狛川を美しくする会 世話人)
	協力スタッフ	29名	田中各河川レンジャー 大人14名、子ども14名
運営事務局	1名		
スケジュール	8:59	上狛川の採水	
	9:29	レンジャーによるジャンボタニシの説明	
	9:51	今年から始めた上狛川の清掃	
	10:31	タニシの駆除と魚採り	
	10:50	タニシの踏みつぶしによる駆除	
	11:56	講師による上狛環濠集落の水環境解説	
	12:15	参加児童から質疑	
	12:18	レンジャーから水質調査結果の講評	
	12:20	レンジャーから今後の活動の参加招致	
	12:25	参加児童による外来種ポスターセッション	
実施場所	木津川市山城支所～上狛川 		

5.2 事前活動

各種資料	(当日配布資料)タイムテーブル、ジャンボタニシミニ知識、子どもの水辺ニュース、水路とまちづくり(中健造氏資料)、親子川の学校たより3号、
関係機関からの支援内容	木津川出張所・・・講師中氏の資料印刷 親子川の学校 in 上狛川ご案内 FAX 送信 上狛東部農地保全会・・・軍手、飲み物支給 長靴、網、水槽
レンジャーの活動内容	・上狛川の下見 数回 ・講師中氏との打ち合わせ ・保健センター申し込みと会場準備

- ・親子川の学校 in 上狛川ご案内の作成と配布
- ・出席者確認と名簿づくり
- ・タイムスケジュールの作成とスタッフへの連絡、打ち合わせ
- ・ジャンボタニシ駆除の準備物用意
- ・前日 レンジャー旗設置
- ・当日の運営
- ・回収したゴミとジャンボタニシの処理
- ・アンケートのまとめ・上狛川ニュースの作成

捕れた魚、生きもの (多い順)

メダカ、ドジョウ、フナ、モツゴ、タモロコ、ドンコ、ブルーギル、タウナギ、ザリガニ、ヤゴ、シジミ、カワニナ

水質

COD	9ppm	上狛川の水は、汚れが多い。
NH4 ⁺ -N	0.1 ppm	アンモニアのちっ素の汚れは、少ない
NO2 ⁻ -N	0.17ppm	あしょうさんのちっ素の汚れが多い。
pH	8.1	ややアルカリ性でした。

(参考写真)



スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の卵塊 巨大なジャンボタニシ

5.3 活動状況



タニシの駆除と魚採りの風景



レンジャーから水質調査結果の講評

5.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめしゃしんでたまごをみたとき、きもちわるかったけれどほんものはそんなにきもちわるくなかった。でも、ぼくはさかなしかとりませんでした。たのしかった。(こたろう) ・ジャンボタニシをくじよしてスッキリした! (かいち) ・ジャンボタニシをとるのがはじめてだったので、おもしろかった。(ゆうた) ・ジャンボタニシ、いっぱいふんだ。(なおふみ 4才) ・今日、ドジョウがいっぱいとれてうれしかったです。メダカが一番いっぱいとれました。(ゆうき) ・ぼくは、ジャンボタニシをとってふみつぶしました。それからドジョウが死んでいたのかわいそうでした。でも、きょうはすごく楽しかったです。なぜかというジャンボタニシがすごくとれて、モツゴももらえたのですごく楽しかったです。ドジョウも3びきか2ひきとれたのでこの川はとくにおもしろかったです。いつもよりあさかったので、ふくもあまりよごれなかったです。でも、くさかったです。またつぎの川も楽しみです。(陽太) ・とても大きいジャンボタニシがとれてびっくりした。少し貝の上がわれていたけど店で売っている置物みたいだった。くじよできてよかったし、楽しかったです。ジャンボタニシは小さいものも大きいものもありました。(じゅんな) ・初めてジャンボタニシ駆除に参加して赤い卵の毒々しさに驚きました。たくさんとる事ができてよかったです。改めて水を大切にしよう、川をきれいにしようという気持ちなり親子で考える機会になりました。ありがとうございました。(松原) ・卵の駆除だけでなく貝自信をたくさん駆除できたのがよかった。 ・講師の先生の話と水質調査の2グループに分けて行ったのは良かった。お話しは少し子どもには難しかったようだ。 ・スクミノンの効果なのか、ジャンボタニシが少なくなったのは今までの活動の成果ではないかと思う。スクミノン購入の補助が付いたというのは取り組みの成果です。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの回収を本格的に行ったが、今後も続けることが大切である。 ・地元の参加者を増やしていくことが必要。そうでないと自分たちで美しい川にしていく意識が育たない。しかし、地元の人「上粕川はきたない」「農家の方が頑張るべきだ」などなど文句ばかり。進んでやって行くという意識をどう作っていくのかが一番の課題である。

6. 木津川台小ボトルアクアリウム ・平成 23 年 10 月 22 日(土)

6.1 実施状況

テーマ	ボトルアクアリウムを作ろう		
担当	木津川出張所管内	福井河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 10 月 22 日(土)13:00~15:00		
参加人数	参加総数	45 名	
	一般参加者	40 名	保護者 4 名、児童 36 名
	河川レンジャー	1 名	
	協力スタッフ	3 名	PTA 役員 2 名、スタッフ 1 名
	運営事務局	1 名	
スケジュール	11:44	素材生物メダカ・ヌマエビ・カナダモの準備	
	12:03	スタッフによる素材の配置	
	12:47	ザリガニと遊ぶ水槽	
	12:53	展示水槽での説明	
	13:36	河川レンジャーによる本活動の注意点説明	
	13:56	ボトルアクアリウムの製作	
	14:32	作成したボトルへの署名と絵描き	
	14:44	アンケートの記入	
実施場所	<p style="text-align: center;">木津川市立木津川台小学校</p> 		

6.2 事前活動

各種資料	ボトルアクアリウムを作ろう・ボトルアクアリウムの生きものたち(レンジャー作成資料)、アンケート用紙、秋の野鳥観察会(告知)、河川レンジャーNews
関係機関からの支援内容	木津川台小学校 PTA 役員さんによる参加者集約、児童準備物の連絡、準備物の用意、後片付け 木津川出張所・・・資料印刷
レンジャーの活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・メール、電話での打合せ ・資料作成 (アクアリウム作りのプリント、木津川と魚と私達パワーポイント) ・材料 (水草、カワニナ、ヌマエビ、メダカ、砂、木の葉など) 集め ・準備物整理 ・水槽展示物の準備 ・当日の運営 ・まとめ

6.3 活動状況



素材生物メダカ・ヌマエビ・カナダモの準備



ボトルアクアリウムの製作

6.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニやカメと遊んですごくおもしろかった。 ・メダカとエビがとりにくかったけど楽しかったし、嬉しかったから、またやりたいです。ぼくはまた来年もしたいです。 ・木津川はこんなにすごいものだとは知らなかった。 ・メダカがなんかかぞくになったような気がしました。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メダカと違う魚の見分けがつきにくかったです。木津川などの川がとても大切だという事が分かりました。カワニナは飼ったことがあるけれどメダカとヌマエビは飼ったことが無いので楽しかった。 ・水草を入れるのがむつかしかった。木津川は私たちにとってとても大切な物と分かった。 ・メダカとちがう魚の見分け方やエサのあげ方を教えてくれておもしろかった。 ・とっても楽しかった。川を大事にしたい。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水草を植えるのとめだかの見分け方が少し難しかったです。カワニナがどんな生き物かわかりました。カワニナやヌマエビが枯れ葉を食べるなんてびっくりしました。ヌマエビがかわいかったです。 ・木津川の事がよく分かった。
<p>今後の課題</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木津川からとても離れている木津川台の子ども達は川遊びの経験もほとんどなく、水生生物を飼育する経験もほとんどない。生き物にじかに触れ、かわいいと感じ、「木津川と生き物と生き物と私たち」の話から木津川の水が飲料水になっている事を知り、生き物や木津川に感心をもつようになったことは大きい成果です。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニ、カメに触れて遊べるようにしたが、子ども達はとても楽しく生き物に触れていた。こういう体験を大切にしたい。 ・材料集めはとても大変だが、子ども達の楽しそうな様子や川への理解が進むことを考えると、続けることが大切だ。 ・「木津川と生き物と生き物と私たち」は低学年にも分かるよう改良していく。

7. 親子川の学校閉校式in不動川

・平成 23 年 11 月 6 日(日)

7.1 実施状況

テーマ	親子川の学校閉校式		
担当	木津川出張所管内	福井河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 11 月 6 日(日) 9:30~12:00		
参加人数	参加総数	57 名	
	参加者	47 名	大人 16 名、子ども 31 名
	河川レンジャー	1 名	福井河川レンジャー
	講師	1 名	山守和良氏(元京都府砂防課)
	協力スタッフ	6 名	田中河川レンジャー 都留氏、今西氏、野田氏、長谷川氏、川越氏
	淀川河川事務所	1 名	木津川出張所 清水係長
	運営事務局	1 名	
スケジュール	9:48	講師とレンジャーによる山城地域の砂防の歴史の説明	
	10:18	砂防堰堤の見学	
	10:25	みんなで風化花崗岩の破碎実験	
	10:30	ヒメヤシャブシの治山効果について説明	
	11:24	川のガキ大将認定証授与	
	11:26	親子川の学校閉校式参加者親子の感想発表	
	11:46	外来魚駆除のポスターセッション発表者たち	
実施場所	木津川市山城不動川砂防歴史公園 		

7.2 事前活動

各種資料	現地調査資料(不動川相谷石積堰堤群：山守和良講師作成)、親子川の学校たより 4 号、秋の野鳥観察会(告知)、上野遊水池学習と上流域との交流学习会(告知)、山田川水ウォッチング(告知)、
関係機関からの支援内容	木津川出張所・・・資料印刷、川ガキ認定書作成 砂防協会・・・資料提供
レンジャーの活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講師依頼と打合せ、現地の下見と学習会 ・親子川の学校閉校式案内の作成と郵送、メール連絡 ・参加者集約と名簿づくり ・3 回の下見と写真撮影 ・山道の草刈りと目印つけ ・上狛川ニュースの作成、資料作成、川ガキ認定書作成 ・タイムスケジュールの作成とスタッフへの連絡 ・順路にレンジャー旗の設置 ・雨に備えてのテント張り・魚モンドリの仕掛け ・当日の運営 ・後片付けと反省

7.3 活動状況



講師とレンジャーによる山城地域の砂防の歴史の説明



砂防堰堤の見学



みんなで風化花崗岩の破碎実験



親子川の学校閉校式:参加者親子の感想発表

7.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで川の学校に来てたくさんの方が分かるようになりました。「タウナギ」はきたない川の代表ですごく長いし、ブラックバスを捕まえると意外に小さかったです。追い込みでドンコもつかまえられました。川の学校はとても楽しかったです。(女の子) ・川の学校では娘の意外な一面を発見し嬉しくなりました。こういう体験をほかのお母さん達と分かち合いたく又、地域や学校に投げかけていきたいと思います。 娘ともどもお世話になりありがとうございました。(母親) ・ぼくは魚が好きです。だから魚とりが好きです。一番楽しかったのは、和束川です。いっぱい魚もいたしイモリもいました。朴派言うところがとっても大好きです。今、魚を飼っているので大切にしています。川の学校は大好きです。和束川は冷たくてもっと魚とりをしたかったです。 ・木津川の周辺にはとても楽しい川がいっぱいあるので川の生き物や自然を今まで以上に大切に、川を楽しみたいと思います。でも、木津川で外来種が増えたり、砂が無くなってきたり色々な万代があるのでその問題を解決するために私も皆と一緒に考えていきたいです。川の学校は一年間楽しかったです。ありがとうございました。(女の子) ・大人になってからの川のイメージは汚れている・くさい・危険などあまりいいものではなく、それほど身近な存在ではありませんでした。実際、川に入ったり水質検査をしたりする中で汚れや臭いは気になりましたし、泥に足をとられたり深い場所があったりしましたが、それらは私たち人間が川の環境を守り、川でのルールを守るという当たり前の行動をすることで解決されていくのだと、改めて気付かされました。省略(父親) ・スタッフファミリーになったことで色々な川を見るたびに「この川ならみんなで入って遊べるね。」と家族で話し合うようになりました。 スタッフになって先生のご苦労も分かり、皆さんの役に立ったら嬉しいです。(スタッフの母親)
<p>今後の課題</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフファミリーをつかったことで親子共々主催者のように自覚と責任を持って親子川の学校の運営をしてくれた親子がたくさん出てきた。後片付けもしっかりしてもらえ、活動が楽になった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクール生とスタッフを多くとったため、連絡、準備、当日の運営が大変だった。定員を適正にしていく。

8. 木津川市環境まつりボトルアクアリウム

・平成 23 年 11 月 19 日(土)

8.1 実施状況

テーマ	木津川市環境まつり		
担当	木津川出張所管内	福井河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 11 月 19 日(土) 10:00~16:00		
参加人数	参加総数	113 名	
	参加者	108 名	ブース訪問者：大人 70 名、子ども 38 名
	河川レンジャー	1 名	福井河川レンジャー
	協力スタッフ	3 名	親子川の学校スタッフ 2 名 山城フォレスト 1 名
	運営事務局	1 名	
スケジュール	9:47	ブース準備	
	10:02	スタッフと参加者活動	
	11:22	ボトルにお絵かき	
	11:44	河川レンジャーの話と指導	
	14:37	参加者と質疑応答	
実施場所	木津川市リサイクル研修ステーション 		

8.2 事前活動

各種資料	ボトルアクアリウムの生きものたち(レジュメ)、シンポジウム木津川ものがたり(告知)、河川レンジャーNews
関係機関からの支援内容	木津川出張所・・・資料印刷 クルット・・・空き瓶の回収、チラシ作製 やましろ里山の会、森林ボランティアサン・フォレスター・・・空き瓶集め
レンジャーの活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルセンターとの打ち合わせ、 ・展示物、資料の作成 ・空き瓶の整理 ・水作り ・材料集め(水草、ヌマエビ、カワニナ、メダカ、砂、枯れ葉) ・前日準備と会場作り ・当日の運営 ・後片付けとまとめ

8.3 活動状況



玄関前の展示ブースと参観者



参加児童のアクアリウムづくり



河川レンジャーの話と指導

8.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年ボトルアクアリウムに参加しています。今回は容器を持参しました。メダカ、大切にします。 ・いろいろな話が聞けてとても楽しかったです。頑張ってメダカを増やしたいです。 ・私は生き物が大好きです。メダカは見ていだけで癒されます。今回はめだかの上手な飼い方を教えて頂き勉強になりました。プレゼントを頂いてとても嬉しいです。大切に飼わせてもらいます。ありがとうございました。 ・昨年いただいたメダカ、一匹ですが元気です。カワニナは何度が生まれて瓶の中はカワニナだらけになっています。エサをやったり元気かなーと見たり子ども達も「今日はメダカの友達をもらおう。」とききました。ありがとうございます。 ・元気で泳いでいる魚さんを見ていると自分も元気をもらえる気持ちになります。死なせないようにして育てていきたいと思います。孫が遊びに来たら見せてやりたい気分です。 ・瓶での水槽作りはとても楽しかったです。こういう体験をさせて頂いてとても楽しかったです。ありがとうございました。 ・展示物を見て木津川の事がよく分かりました。
<p>今後の課題</p>	<p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボトルアクアリウム作りが広がって行ってリピーターが増え、生き物に感心を持ってもらえるようになった。空き瓶のリサイクルにもなるので環境まつりにはぴったりの取り組みである。 ・参加者に空き瓶を持ってきてもらうのは、とても助かる。 ・展示をすることで川に関心のなかった人たちも木津川について考えるようになってきているので、積極的に展示をして話しかけるようにしていく。

○田中河川レンジャー活動実施報告

9. 山城大橋ワンドとタマリ魚採り

・平成 23 年 10 月 15 日(土)

9.1 実施状況

テーマ	山城大橋わんどとたまり魚採り (2月4日の「近畿子どもの水辺交流会」発表のための調査活動)		
担当	木津川出張所管内	田中河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 10 月 15 日(土) 13:00~17:30		
参加人数	参加総数	16名	
	一般参加者	7名	子ども7名
	河川レンジャー	1名	田中河川レンジャー
	講師	3名	原 秀範氏、姫野 諒太郎氏 都留 浩子氏(やましる里山の会木津川部会)
	協力スタッフ	4名	福井河川レンジャー
	運営事務局	1名	やましる里山の会木津川部会
スケジュール	13:38	ライフジャケットの装着	
	14:04	ワンド、タマリで魚採り	
	14:54	わんどの魚たちについての話	
	16:33	解剖実験の実施	
	17:12	外来魚駆除のポスターセッション準備	
実施場所	<p>山城大橋下流右岸</p> 		

9.2 事前活動

各種資料	特になし
関係機関からの支援内容	北河原流域センター：国交省から会場提供 ライフジャケット：中央流域センター
レンジャーの活動内容	<p>1. ワンド調査 山城大橋ワンドは、前日からの雨による自然増水とダムからの放流による増水とで、水没していた。ワンドと木津川本流とを隔てる壁が増水で水没。本流の水が直接流れ込む状態になっていた。ワンドに入るために中洲へ渡る地点も、そこに至る道の途中から水没。また青谷川河口の泥タマリも上流・下流からの増水で大きく幅を広げ、道を水没させていた。全員がライフジャケット、スローロープ装備の上、子どもは大人のいる地点より向こうに行かない、など安全体制を確認して入った。 ●ウシガエルとでかいナメクジ、投網を打ってもらると、20 cm大のヘラブナ、ブラックバスが捕れた。またタマリには洪水から避難してきたのか大きめの魚の水紋が見られた。</p> <p>2. タマリ調査 タマリはワンドより下流で、河川敷の中では内陸側にあり木津川本流までは距離がある。このタマリは本流の水が伏流しているらしく、本流の水位が上がればタマリの水位も上がる。この日は深い所で大人の腰ぐらいまでになっていた。タマリは本流に平行して複数あり、洪水時には全部がひ</p>

とつ大きなタマリとなり本流ともつながり、その時に魚やカメが入ると
思われる。またこのタマリのひとつは淀川水系で最後までイタセンパラが
生息していたと言われている貴重な場所。

子ども達は、タマリに入ると本能的に安全とわかるのか、それぞれ魚と
りに集中する子、泳いだりダイブしたりして結果的に原さんの投網の追い
込みを身を呈してやっている子など、いつものパワーさく裂！●タマリの
生き物は、オイカワ稚魚多数、ブラックバス、ブルーギル、
ドンコ、フナ（死）、タウナギ、ドジョウ、エビ、ヒメタニシ多数、
イシガイ、タニシ卵塊（姫野くんより、カンテンコケムシではないそうで
す）を確認

3. 解剖教室

雨足もきつくなってきたし、木津川もどんどん増水しているので、セン
ターに移動。

9月の「川の学校・鹿川」でも大好評だった都留さんの解剖教室、もう
一度見たい！やってみたい！の声が多数あったので、お願いしました。さ
っき捕れたウシガエル、ブラックバスが解剖対象です。まず先生の実演。
ウシガエルを見事な手さばきで開腹していきます。「ここが筋肉、ここが
腹膜、心臓まだ動いてるね」とクールに解説しながらウシガエルはどんど
ん展開されていきます。気になる胃の中、何を食べているのか？胃袋を切
り開くと虫の形？姫野くんが「砂地にいる珍しいニワハンミョウ」と説明。

●気になる胃の内容物は、

「1 匹目」→カエルらしき頭蓋骨、脊椎、大たい骨と筋肉や皮膚

「2 匹目」→やはりカエルか？大たい骨が一匹目と一緒

「3 匹目」→エビ2匹と小魚らしきもの（魚種は細長いのでドジョウ
とする説もあったが、ウロコらしいものや縦の模様からモツゴか？）

「バスはカエルまで食べるのか！」と驚きの声が出た。

4・ポスター提出

これから木津川出張所と山城南土木事務所に交渉の上、鹿川現地に掲出で
きる形にします。掲出の日は後日案内するので、できるだけ自分のポスター
を自分の手で貼る予定。

9.3 活動状況



たまりで魚採りのようす



わんどの魚たちについての話



解剖する子ども達

9.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>先日の集まりから、子ども達が初見で何を感じているのか知りたく感想を書いてもらってます。家に帰って、それぞれが考えて、また知識や理解を深めていくでしょうが、その軌跡が後でわかるよう記録しています。面倒ですが協力してくださいね。</p> <p>●生き物調査（タマリに関して）</p> <p>「タニシがいっぱいいた。ぞう水で水位が上がっていたから深い所が多かった」</p> <p>「前に来た時は水位が低かったけど今日はすごく高かった。そのためいつもより魚が少なかった。ヒメタニシがすごく多かった」「福井先生と一緒に魚をとっていたらイシガイがとれた。タナゴはあまり大きいイシガイには卵を産みにくく、ぼくがとったイシガイはちょうどいい大きさだった」</p> <p>「水位が高かった。あまり魚がいなかった」</p> <p>「今日すごい水がふえたこととタニシが50匹ぐらいいた」</p> <p>「死んでいるフナしか魚がとれなかった。ヒメタニシの大群がいた。貝かエビしかとれなかった」</p> <p>「きょうタマリにいくと水がすごくふえていて魚がよろこんでいるということがわかった」</p> <p>●解剖教室について</p> <p>「ごんちゃんのお母さんが解剖したのは胃袋からニワハンミョウが出た。めずらしいのでびっくりした。ぼくが解剖したブラックバスの胃袋には大きなウシガエルが入っていた」</p> <p>「生ぐさかった。カエルを食べていてびっくりした。(ドジョウ、いもむし、ニワハンミョウ、カエルのざんがいのイラストありがとう!)」</p> <p>「ブラックバスの胃からカエルが出てきたのがおもしろかった」</p> <p>「ブラックバスの中からカエルやエビがでてきた。カエルはあんまりわからなかったけどエビはわかりやすかった」</p> <p>「エビやカエルがブラックバスから出てきたのでびっくりした。それとかカエルからハンミョウが出てきた」</p> <p>「ブラックバスの中からカエル(ウシ?)が出てきてびっくりした。ともぐいで外来種がへればいいなと思った」</p>
<p>今後の課題</p>	<p>今回の「山城大橋ワンド・タマリ生き物調査」では、増水のためワンドにアプローチすることすらできず、その点では不満の残るものになった。タマリでの調査はそこそこの成果があったし、解剖教室では大満足であったが、やはり一番のフィールドであるワンドを状態のいい時に9月の台風後どのように変わったのか再調査したい。「リベンジしよう」という声が子供達全員から出た。</p> <p>今回出席してくれたみんなの日程調整の結果、10月29日(土)の午前中早めに9時からに決定。</p>

10. 浄化センター環境まつり展示

・平成23年10月23日(日)

10.1 実施状況

テーマ	洛南浄化センター(城南衛生管理組合)環境まつり展示		
担当	木津川出張所管内	田中河川レンジャー	
開催日時	平成23年10月23日(日)9:00~15:30		
参加人数	参加総数	93名	
	一般参加者	88名	大人(付き添い)、子ども88名
	河川レンジャー	1名	田中河川レンジャー
	講師	1名	植田 光弘氏 (自然環境インストラクター)
	協力スタッフ	1名	やましり里山の会木津川部会
	淀川河川事務所 運営事務局	1名 1名	木津川出張所 清水係長
スケジュール	9:42	当日設営展示準備	
	9:43	展示ブースの全景	
	10:50	針金とストローでアメンボづくり	
	11:09	水槽展示を観察する訪問児童	
	11:24	ストーンペイント	
	11:30	ブースは満員の盛況	
	11:37	作成したアメンボの浮きぐあいを試す	
	11:39	ペイント作品完成	
実施場所	城南衛生管理組合洛南浄化センター運動広場(八幡市)		
			

10.2 事前活動

各種資料	秋の野鳥観察会(告知チラシ)、「食」をささえた淀川(告知チラシ)、ストップ淀川水難事故(啓発パンフ)、淀川モバイルネット(広報チラシ)、河川レンジャーNews(4種)、里山の風(啓発パンフ)
関係機関からの支援内容	城南衛生管理組合より展示ブースの提供 河川事務所より国交省備品、印刷物の提供 福井河川レンジャーより水槽の生きもの貸与
レンジャーの活動内容	(目的) 「洛南浄化センター(城南衛生管理組合)環境まつり」は、環境展示、リサイクル市、フリーマーケット、うまいもの横町などからなる、地域密着型のエコイベントです。今年初参加でしたが、三川合流にほど近い下流エリアで河川レンジャー活動の周知を図り、木津川の生き物展示、工作により木津川の生き物たちをより身近に感じてもらえるよう企画しました。

10.3 活動状況



展示ブースの全景



針金とストローでアメンボづくり



水槽展示を観察する訪問児童



上手にできたペイント作品

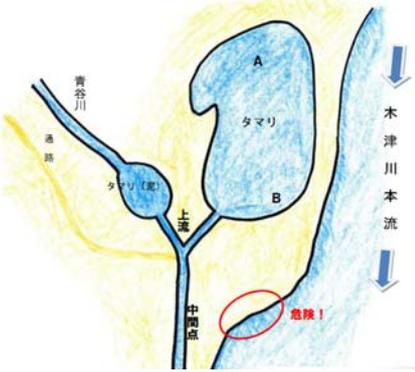
10.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>アンケートより（参加者の川への思い等）</p> <p>●子どもの頃、河川で様々な生物をつかまえた思い出があります。最近では事故防止等の理由により立入ができない河川が多く感じる。町にある公園のように沢山の人が集まって遊ぶことができる河川が増えればいいなと思います。河川公園の様な場所を増やしてほしいです。●今年の夏も木津川で魚をとって遊びました。●家族でいつも川で遊んでいます。キャンプや魚とりができるきれいな川を永遠に守りたい。●透明の川や臭いのない川になってほしいです。●皆が安心して入って遊べる様なきれいな川が近くにあると良いなと思います。●20年ほど前までは大谷川上流（防賀川との合流点）や流れ橋で水遊びをすることができました。今の子ども達は川での水遊びは不可能になっています。とっても悲しいことです。少しでも川をきれいにしてほしい。●みんなで遊べる川になりますように！●子どもが1歳の頃から夏は川遊びに出かけています。毎年キャンプへ行き、自然の中でいっぱい楽しんでます。これからもきれいに安全に遊べるように自然を大切にしたいです。●魚がたくさんいる川がいいです。●小さい頃（4～5歳）には渡れなかった川が大人になってから軽くまたげる位小さかったのには感激した思い出があります。●キレイで泳げる川になったらいいと思います。●カヌー体験、魚つかみ、魚たべ、バードウォッチングなど川では楽しい思い出がいっぱいです。●子供も大人も川に入って楽しんで、川の魚を家に持って帰って育てて大きくしたり増やしたり。そこから命の大切さ、生態系を子どもが学んでゆけば、おのずから川を守ろうとする子供に育つのではないかしらと考えています。●生き物がたくさんいてキレイな川になってほしいです。●夏は木津川に川遊びに子どもを連れていきますが、行く前は「キタナイ」イメージがありましたが、流れ橋付近はとてもキレイでしたので子供も安全にあそびました。●きれいな大きい川で泳ぎたいな●宇治川が子供が安心して遊べるようなきれいな川になったら…●いろいろなことがわかった。●アメンボ作りは楽しくてよかったです。ひょうめんちょうりよくのことや、水におぼれた虫の血をすうことをはじめて知りました。川はゴミのないきれいで虫がすめるような川になったらいいなと思います。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>所見</p> <p>洛南浄化センター（城南衛生管理組合）「環境まつり」は、環境展示、リサイクル市、フリーマーケット、うまいもの横町などからなる、地域密着型のエコイベントです。</p> <p>当センターをはじめとする複数廃棄物処理施設を運営する「城南衛生管理組合」は京都府南部の3市3町（宇治市、城陽市、八幡市、久御山町、宇治田原町、井手町）の廃棄物行政を進めるために作られた一部事務組合（特別地方公共団体）である。そのため今回の「環境まつり」にもそれらの3市3町より無料シャトルバスが運行されており集客エリアは広いと思われる。</p> <p>今回の出展は、2月の河川レンジャー運営会議で運営委員の谷口さんより是非出展を、と紹介されたものであり、春から手探りで主催者と連絡を取り、審査の上、出展を許可していただいて実現したものである。</p> <p>谷口さんのお話通り、このような公共が高く集客力のある環境イベントにて河川レンジャーが出展することは、レンジャー活動のPRとともに、木津川へのファン作りに役立つと思いました。</p> <p>現場では一息つく暇もないぐらいひっきりなしに来客があり、レンジャー活動についての展示を見る人、生き物の展示水槽を興味深く見る人、アメンボ工作やストーンペイントをする子ども達と大盛況でした。</p>

11. 第二回山城大橋ワンドとタマリ魚採り

・平成 23 年 10 月 29 日(土)

11.1 実施状況

テーマ	第二回山城大橋ワンドとタマリ魚採り (2月4日の「近畿子どもの水辺交流会」発表のための調査活動)		
担当	木津川出張所管内	田中河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 10 月 29 日(土) 9:00~12:00		
参加人数	参加総数	16 名	
	一般参加者	9 名	子ども 9 名
	河川レンジャー	1 名	田中河川レンジャー
	講師	2 名	原 秀範氏、都留 浩子氏(やましり山 の会木津川部会)
	協力スタッフ	3 名	福井河川レンジャー やましり山の会木津川部会
	運営事務局	1 名	
スケジュール	9:21	活動の注意点についてレンジャーから説明	
	9:48	ワンドに入って魚採り	
	10:02	前回の洪水で大きく変わった中州	
	10:27	講師と採れた生きものの同定	
	11:24	現地で土砂の変化についてレンジャーから説明	
	11:27	タマリと本流の全景(下流方向)	
実施場所	<p style="text-align: center;">山城大橋下流右岸</p>  		

11.2 事前活動

各種資料	「子どもの水辺」ニュース Vol.5
関係機関からの支援内容	河川レンジャー事務局よりライフジャケット一式

レンジャーの活動内容	<p>さて、10月29日(土)の成果報告速報です。</p> <p>青谷川泥タマリにて→カネヒラ2、タイリクバラタナゴ稚魚 ワンド(大きなタマリ)にて→タナゴ稚魚(シロヒレタビラ)、ヌマチチブ稚魚多数、 あちこちで→ブルーギル 大2、小12、オイカワ、フナ、コイ、モツゴ、ドンコ、カマツカ、 ドジョウ、スジエビ、ヌマエビ、クサガメ、ヤゴ各種</p>
	<p>2011年10月の様子</p>  <p style="text-align: center;">←</p> <p>2010年8月の同じ場所</p> 

11.3 活動状況



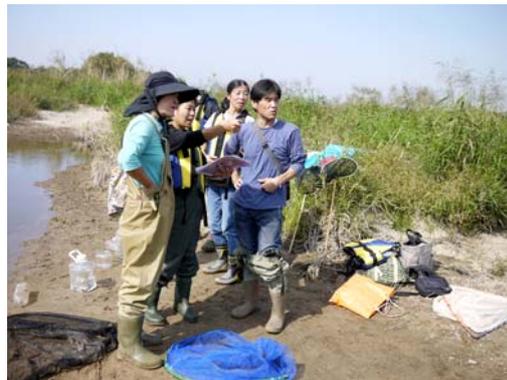
活動の注意点についてレンジャーから説明



ワンドに入って魚採り



講師と採れた生きものの同定



現地で土砂の変化についてレンジャーから説明

11.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●しんくん <ul style="list-style-type: none"> ・上流からたくさん水の上に砂が入ったために、少し砂をほると湿っていた。 ・「小川」ときいて木津川と合流しているのかと思ったが、途中で切れていたために追い込むと（魚が）たくさんとれそうだった。 ・木津川には砂浜があるけれど、草が生えている所が多い。でもこのワンドには草が1本も生えていない。この前の大水でできたばかりで草がまだ育っていないんだと思う。また、砂のおかの高さが2～3mあるので、川がすぐに大きく形を変えるというのが目で見てよくわかった。このワンドにはたくさんの小魚がいたことから、<u>ここは魚が繁殖している場所だ</u>とわかる。でも周りにサギやアライグマなど魚を食べる生物の足跡もあったから、増えるだけでなく他の生物のエサになっているんだと思った。 ●ようくん <ul style="list-style-type: none"> このままだとタマリが消える！ワンドやタマリでタナゴ類がとれなかったのが残念。早くワンドにもどってきてほしい！タマリ（泥）はとれたと書いてあったので少し安心。（※1回目の山城大橋調査では増水の中、タナゴはとれませんでした。2回目は水量が落ち着いていて、カネヒラが3匹とれたんだよ。ようくん、良かったね！） ●こうしろうくん <ul style="list-style-type: none"> 前よりブルーギルが増えていた。 ●まよちゃん <ul style="list-style-type: none"> 何年か前の魚とりより、<u>外来魚の数が</u>増えていた。<u>ワンドと本流を隔てる壁は、前は低木が生えていたはずだ</u>と思う。いつもタマリに入る前の砂洲が小さくなっていた。それにワンドの上流側には前まであんなに<u>たくさんの砂は</u>なかった。もしこのまま上流から砂が流れ続けたら、<u>タマリの面積が減ってしまう</u>と思う。
-----------------	--

	<p>●ごんちゃん 魚はいっぱいとれたけど、<u>ほとんどが稚魚だった</u>。稚魚の中には<u>ブルーギルの稚魚</u>もいた。足がズブズブ沈んで、砂が多いことがわかった。砂が流れ込んできたと聞いていたが、<u>そのとおりだと思った</u>。<u>このままいくと砂でうまると思った</u>。</p> <p>●そうくん ワンド調査では、魚とりあまりしなかったけど、そのかわりに大智くんと砂のおかで砂遊びをしました。ぼくは、<u>すなはまと言え、海を思い出</u>すけど、木津川のワンドの砂もとてもサラサラしていて気持ちよかったです。</p> <p>●さくらちゃん ブルーギルやコイの産卵しかできなかったから他の魚の数がへってくると思う。日本にはいてほしい魚が見れなかったのが、心配。下流に行くにしたがって伏流水の量がへっているのしょうけれど、タマに油のようなものが浮いていたり、水溜りだったり。植生を見るかぎりいくつか年中水ありそうだけどあさい深いにかかわらずエビ、ザリガニ、ヤゴしかいなかったから残念。 (さくらちゃんは、都合で調査に参加することができなかったけど、「水辺ニュース」を読んで一生懸命現地の様子を想像して書いてくれました。ありがとう。この文は途中から下流の長谷川までのタマの表記と混同してしまったようですが、ワンドとは違う場所の報告を見たのかな？また次の機会と一緒にワンドに行ってみようね！)</p> <p>●ひろこちゃん ワンドが大雨のせいか、大きく削れ深くなってしまい、魚が減る心配がある。</p>
今後の課題	<p>①木津川ならではの内容にしたい →木津川は、「ワンド」「砂の川」 →ワンド調査、砂の川の特徴を見学 「自分たちのフィールドが大きく変化していることを実感」 「木津川は砂の川なので、地形がわかりやすい」「今年は特にかわった」</p> <p>そして、親子川の学校・鹿川の生き物調査で、 →前の年の調査にくらべてブラックバス、ブルーギルがふえた そしてゼゼラやヨシノボリ、ドジョウなどの川底にいる魚がへっていた →②外来魚駆除のポスターをつくって、みんなによびかけよう！</p> <p>今のところ、この2本立てで進めていくつもりです。子ども達の発表したいことを次回持ちよりたい思います。デスクワークです。</p>

12. 木津川生津 鳥の観察

・平成23年11月20日(日)

12.1 実施状況

テーマ	秋の野鳥観察会 in 久御山町		
担当	木津川出張所管内	田中河川レンジャー	
開催日時	平成23年11月20日(日)9:00~12:00		
参加人数	参加総数	27名	
	一般参加者	21名	大人11名、子ども10名
	河川レンジャー	1名	田中河川レンジャー
	講師	1名	植田光弘氏(自然環境インストラクター)
	協力スタッフ	2名	やましり里山の会木津川部会
運営事務局	2名		
スケジュール	9:33	レンジャーから活動の主旨説明と講師による観察上の諸注意	
	9:46	鳥観察の開始	
	11:26	明治に付け替えられたため遺跡となった生津の井戸	
	11:51	スタッフによる植物観察	
実施場所	久御山町役場～京都市伏見区淀生津 		

12.2 事前活動

各種資料	秋の野鳥観察会レジュメ(久御山町)、野鳥観察リスト、アンケート用紙、河川レンジャーNews
関係機関からの支援内容	木津川出張所より配布書類印刷一式、参加者受付業務 久御山町役場事業建設部建設整備課の奥田課長河川レンジャー(運営委員)上流域流域センター橋詰センターレンジャーより、久御山町周辺駐車場手配 NPO 法人やましり里山の会 スコープ一式貸与 河川レンジャー事務局担当者から京都市伏見区淀生津を含む三川合流の歴史研究の中から、参加者に明治元年の木津川付け替えの話
レンジャーの活動内容	当日確認した鳥 25種 カワウ、ダイサギ、アオサギ、ミサゴ、トビ、チョウゲンボウ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ホオジロ、カワラヒワ、ツグミ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハヤブサ、キセキレイ、タカ SP (タカ類で判別不能だった個体) (21種) 声だけは、キジ、ジョウビタキ、ウグイス、アオジ (4種)

12.3 活動状況



レンジャーから活動の主旨説明と講師による観察上の諸注意



鳥観察のようす



河原で遊ぶ参加者児童
(田中河川レンジャー撮影)

12.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>アンケートより参加者の感想 「大空を舞うミサゴに感動する。野鳥観察に興味がだんだんとわいてきた」「鳥が好きで楽しみにしていました。植田先生にたくさん質問できて満足でした。また是非開催して下さい」「初めての参加でしたので鳥の事はあまりわかりませんでしたが色々な鳥がいるのがわかった。また参加して楽しみたいです。木津川流路付け替えの話に興味深く面白かった」「先生方の説明つきで有意義に観察できました。服装（長靴）もう少し考慮したかったです」「フィールドスコープの使い方を教えて頂いて、鳥のしぐさや羽の色まではっきり見えて、可愛く愛おしく思いました。鳥の事と地形や郷土のことも詳しく教えて頂いてとても嬉しかったです」「ちょっと風が強かったが、比較的鳥もよく出ていて、説明も丁寧でよかったですと思います」「色々な鳥が見れたし、植物やキノコなども見れた」「キジの声は聞こえたけど見れなかったのが残念。でも他の鳥で一番かっこいい鳥はハヤブサでした。また参加したいです」「先生二人に教えてもらえてよかった。色んなことに詳しい子供がいてびっくりした」</p> <p>アンケートより、自然、木津川、野鳥に対するあなたの思い 「子供の頃、鳥を見るのがとても好きでした。それを思い出し本日参加しました」「身近な川なので治水と環境の両立ができればいいと思う」「河川敷の自然を残していきたいと思います」「野鳥の生育環境をこわさないように」</p>
<p>今後の課題</p>	<p>所見 秋の野鳥観察会は、初めての開催である久御山町です。実は参加者用の駐車場は当初、久御山町役場の広大な駐車場の使用許可をとるつもりでしたが、うかがってみると当日は中央公民館で「芸能大会」という全国規模の大きなイベントがあり、使用不可ということでした。上流域流域センターの橋詰センターレンジャーより久御山町の河川レンジャー運営委員である事業建設部建設整備課の奥田課長にお願いいただき、近隣の町役場駐車場に便宜を図っていただき、トイレ使用も許可いただきました。</p> <p>当日朝は、前日までの雨とはうってかわって雨上がりのあたたかい晴天の中での開催になりました。今回は室内も確保できないし、屋根もない集合地での開催になっていたのも、雨天なら即中止および延期調整になっていました。木津川センターのように、室内もトイレも駐車場もある拠点の有り難さを再認識しました。</p> <p>参加者の集合確認後、堤内のグランド側に移動して、開催挨拶・講師紹介・スコープの使い方説明・河川レンジャー事務局紹介を行い、出発しました。</p> <p>植田先生のお話では、この久御山町グランドは以前は広い面積を占めていたのですが、国に下流側半分を返上し、そこは緑地になっているという事でした。その緑地には草が茂り、低木も生えて、野鳥の貴重な生息地になっています。ここではブッシュの中から冬にむけて到来するアオジや、ウグイスの地鳴きの声が聞こえてきました。植田先生のお話は、野鳥の話から野鳥の食べ物の話、また木津川の生態系全体の解説にまでおよび、大変勉強になりました。秋空にはミサゴ、ハヤブサなどの猛禽類が長時間羽ばたき、畑地ではこのような低地では珍しいキセキレイが見られました。</p> <p>また河川レンジャー事務局の担当は京都市伏見区淀生津を含む三川合流の歴史研究をされているという事で、即興で皆さんに明治元年の木津川付け替えの話していただきました。生津では木津川真ん中に残る井戸跡を遠望しました。</p> <p>木津川河床に残る弥生時代の遺跡の話をしていただいた際には、子供たちが河原で多数の土器片を探しだしていました。</p> <p>やましろ里山の会の伊藤さんは所々で植物のお話をして下さいましたし、姫野くんも珍しい生き物や植物を見つけては廻りに声をかけてくれ、楽しく賑やかな観察会になりました。</p> <p>最後に出発点の駐車場に戻り、解散後アンケートを記入してもらっていると、10mほど上空に2羽のチョウゲンボウが出現。しきりに堤防内に急降下をし始めました。「小鳥でも襲っているのか」と観察しました。</p> <p>今回の観察会はコンパクトな集団でしたが、その分、植田先生のお話を全員で聞くことができましたし、ちょうどいいスケールであったと思います。</p>

13.上野遊水池を知る

・平成 23 年 12 月 4 日(日)

13.1 実施状況

テーマ	上野遊水池を学習する上流域との交流学習会		
担当	木津川出張所管内	田中河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 12 月 4 日(日)9:30~15:00		
参加人数	参加総数	43 名	淀川管内 18 名、木津上 25 名
	一般参加者	25 名	大人 10 名、子ども 15 名
	河川レンジャー	6 名	淀川管内 山村、福井、田中河川レンジャー 木津川上流管内 西、溝延、西田河川レンジャー
	講師	1 名	森下文洋氏(木津川上流事務所管理課管理係長)
	協力スタッフ	8 名	都留氏、原氏、菊池氏(やましる里山の会木津川部会)、岩城氏、岩城氏、辻氏、藤森氏(依那古探検隊)、廣岡氏
	運営事務局	3 名	木津川管内 1 名、木津川上流管内 2 名
スケジュール	10:53	講師による木津川のあらましと国交省の仕事の説明	
	11:08	下流レンジャー・スタッフから質疑	
	11:46	下流レンジャーとの話	
	12:27	川魚試食	
	13:08	長田橋東詰にて木津川と遊水池を展望	
	13:45	服部川にて水辺に降りて魚採り	
	13:54	採れた生きものの同定	
	14:28	センターに戻って活動のまとめ	
	14:44	下流「近畿子どもの水辺交流会」の成果発表	
実施場所	上野遊水池集中管理センター(バス)～鍵屋之辻～長田橋東詰～木津川観察		
			

13.2 事前活動

各種資料	アンケート記入用紙、木津川水系魚類等生息種リスト、遊水スイスイ館案内(パンフレット)、上野遊水地集中管理システム(リーフレット)
関係機関からの支援内容	木津川出張所 木津川上流河川事務所管理課森下係長との調整 木津川上流河川レンジャー西レンジャー 共同企画の計画、遂行、講師 木津川上州河川事務所管理課 今企画に関する管理、講師
レンジャーの活動内容	<p>「上野遊水地学習と上流域との交流学習会」の活動は、私が河川レンジャーになるより何年も前に、やましろ里山の会で「木津浄水場見学会」の活動に参加し、そこに講演に来られていた「上野遊水地の地権者の代表の方」のお話が心に残り、いつか実施したいと何年も心にあたためてきた活動です。</p> <p>当時のお話で「上野には遊水地という洪水時に水を一時的にためる場所がある」「それは普段は田畑である」「上野は3つの川が合流する場所で、直下流に岩倉峡という狭窄部があり上野盆地の低地帯は洪水が昔から多い」「自分達の祖先の時代から、岩倉峡を広げて水を流しやすくしてほしい。上野を洪水から解放してほしい。と政府に嘆願してきたが、流域全体のことを考えるとそれはかなわなかった」「洪水時に大切な作物が犠牲になることは辛い、制度が整ったのでこのたび自分たちの土地を遊水地とすることにした」という内容でした。私自身はそれまで自分の目の前を流れている木津川に興味があっても、上流の状況を思いやることができていなかったと痛感し、上流との交流を通して一本の川を共有する仲間作りをしたいと思いました。</p> <p>この時感じたことをいつか活動にうつしたいと思い、木津川上流管内河川レンジャーの西レンジャーに呼びかけ、上流で毎年行っている12月の学習会に下流からの要望を合わせた形で実施したのが今回の企画です。</p> <p>上野遊水地学習では、木津川上流河川事務所の管理課森下係長のお話をうかがいました。国土交通省の仕事の中身、川の上流下流の思いやりと連携の大切さ、上野遊水地のできた経緯とはたらき、近年のゲリラ豪雨の多発と急激な増水による水害に注意しようというお話で、下流からの参加者は「遊水地を今回の活動で初めて知った」「下流は上流の方にしていただかないといけない事の多い立場。勉強になった」という声が出ました。これは私が本当に知ってほしかった内容で、森下係長の素晴らしいお話に感動しました。</p> <p>西レンジャーの郷土の食文化学習の講義で上野地域の川漁師さんの事、昔の舟運を使つての大阪・京都との交易の話をつかぎ、お楽しみの昼食弁当と川魚の試食です。(レンジャー活動では、食事に対しての保険がないため食事を伴う活動は不可なので、今回の試食はあくまでも個人の判断と責任に範囲で行ってほしい点、下流の参加者に事前に周知しました)</p> <p>建物の外に出て裏の駐車場のテントで揚げたてのナマズの唐揚げ、モロコなどの小魚の唐揚げ、鯉の味噌汁、鯉・モロコの飴炊きをいただきました。下流からの参加者は、珍しい川魚の料理に舌鼓を打っていました。</p> <p>昼からは上流のレンジャーさんが手配された観光バスで、上野遊水地の見学に出かけました。移動途中で鍵屋の辻の浸水記録標の説明があり、昭和28年の台風による洪水では2,5mにまで水が達した地点を見学しました。</p> <p>長田橋東詰めにある「淀川遡航終点碑」では、昔、トラックによる輸送がなく舟運が盛んだったころ、ここまで大阪や京都から淀川(木津川)を舟で遡って物資を輸送していた話を聞きました。</p> <p>同じく長田橋では長田遊水地、木興遊水地を見学し、実際の遊水地のスケールの大きさに驚きました。洪水時に水につかって貯水する場所が田畑だということも実感できました。また遠くの山を遠望すると、伊賀富士や木津川の源流のある青山高原・笠取山(青山高原ウィンドファームの風車群が見える)がありました。</p> <p>バスで服部川との合流点に移動し、水生生物観察を行いました。下流か</p>

らの参加者の原さん、原弘樹くん、菊池くんとで胴長をはいて冬の川に入り、タモ網ですくい、ギギ、フナ、カワムツ、カマツカ、ウキゴリ、ヨシノボリ、コヤマトンボのヤゴ、サワガニ、トビゲラ幼虫、カゲロウ幼虫、ミズカマキリなどを観察できました。

上野遊水地集中管理センターに戻り、交流会です。下流の子供たちは「子どもの水辺交流会奈良大会」の発表をし、上流の西レンジャーからは上流レンジャー活動の報告がありました。

今回の活動を通じて、下流の我々は上流の遊水地や木津川の状況を知ることができ、それにもまして、上流の方々との交流を通じて「木津川は一本」であること、上流下流でお互いを思いやることの大切さを知る事が出来ました。木津川をより大切にしたい気持ちが全流域に広がることを願います。

今回に活動では、私の呼びかけに、想像以上の形で上流の皆様にはお応えいただきました。木津川上流河川事務所の森下係長、木津川上流管内河川レンジャーの西さん、木津川上流管内河川レンジャー事務局の伊藤さん、今西さん、依那古探検隊の協力スタッフの皆様には、深く感謝を申し上げます。これからも繋がり続ける為に、私は自分にできることを精いっぱいしていきたいと思いました。

13.3 活動状況



川魚賞味のようす



長田橋東詰にて木津川と遊水池を展望



木津川にて水辺に降りて魚採り



下流親子川の学校の成果発表

13.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>アンケートより参加者の感想（西河川レンジャーまとめ）</p> <p>（上流）・下流の活動報告は大変素晴らしかった。・水をきれいにしないといけないと思いました。・いろいろな魚を見て良かった。・水生生物が沢山いるのにびっくりした。・水に入るのは楽しかった。・大変勉強になった。・川の防災・地震の歴史が知りたい。</p> <p>（下流）・遊水地の役目が解かって良かった。・魚を食べる経験が出来て良かった。・魚がおいしかった。・上流の事が良く解かった。・上流はきれいだと思った。・水に入るのは楽しかった。・子どもが楽しんでいた姿を見て良かった。・子どもが遊べる川・空間がもっと欲しいと思った。</p> <p>アンケートより自由な意見（西河川レンジャーまとめ）</p> <p>（上流参加者の声）・木津川下流の活動報告は大変すばらしかった。（上流もがんばりましょう）・下流の親子川の学校の活動に感動しました。上流でもこの様な親子の活動や勉強会が盛んになると良いと思いました。・水をきれいにしなければいけないと思いました。日々の汚れた水を流さないように気をつけたいと思います。・川を詳しく観察した事がなかったので、水生生物が沢山いるのにびっくりした。・私達に出来る事はなにか？何気なく流していたものについてとても反省しています。・昔は川で泳いでいた記憶があります。また泳げる川にしたい。</p> <p>（下流参加者の声）・上流に来ればますます身近な川だと感じました。上流の川の景色が大変良かった。交流の機会が次に生きるようにして下さい。・遊水地について勉強が出来て良かった。・ナマズや魚の唐揚げやみそ汁がおいしかったです。・漠然としか知らなかった上流の事が見聞きしたことで良く伝わった。下流は上流に“してもらわないといけない立場”、共存について今後考え実行していきたい。・おいしいものをたくさんいただきました。ごちそうさまでした。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>この上流下流の交流は、今回が出発です。これをきっかけに連携し続けるには、次年度にどんな活動を計画するのがよいか、これからの重い課題です。よく練って、自分の活動計画として持ち続けたいと思います。</p>

14. 外来魚駆除啓発展示

・平成23年12月18日(日)

14.1 実施状況

テーマ	鹿川外来魚駆除の啓発ポスター展示 (2月4日の「近畿子どもの水辺交流会」発表のための調査活動)		
担当	木津川出張所管内	田中河川レンジャー	
開催日時	平成23年12月18日(日)10:00~12:30		
参加人数	参加総数	9名	
	参加者	5名	子ども5名
	河川レンジャー	1名	田中河川レンジャー
	協力スタッフ 運営事務局	2名 1名	やましろ里山の会木津川部会
スケジュール	10:45	レンジャーより活動の注意点と主旨説明	
	10:54	展示物の下準備	
	11:22	鹿川船公園にて作品の展示作業	
	12:04	鹿川水辺広場での展示作業	
	12:48	鹿川人道橋での展示作業	
実施場所	木津川市船公園周辺 		

14.2 事前活動

各種資料	(参考写真)
	<p>展示作品のひとつ</p>

<p>関係機関からの 支援内容</p>	<p>木津川出張所 関係機関（京都府山城南土木事務所管理課、木津川市役所公園課とのポスター掲出に関する折衝） ポスター制作（カラーコピー、パウチ加工、看板用ベニヤ板貸与） 京都府山城南土木事務所管理課 ポスター掲出許可 木津川市役所公園課 ポスター掲出許可</p>
<p>レンジャーの活動内容</p>	<p>12月18日（日）10時半から、京都府木津川市の鹿川のふれあい広（通称・船公園）に集合し、秋から制作を頑張ってきた「外来魚駆除啓発ポスター」の掲出を行いました。</p> <p>「ポスターを貼ろう！」という子どもたちの提案は、そもそもこの鹿川で去年と今年に「親子川の学校（主催・福井レンジャー）」生き物調査をした際に、去年の底棲魚類（ドジョウ、カマツカ、ヨシノボリ、ゼゼラ等）の豊富な状況が、今年秋の調査では一変！ブラックバス、ブルーギル大漁という不名誉な結果になり、この場所で魚とりをする人に特定外来魚駆除の協力を呼びかけようと生まれたものです。その考えが素晴らしかったので「子どもの水辺」発表の一つの柱とし、木津川出張所の清水係長から京都府と木津川市に交渉していただき、今回の実現に到達しました。</p> <p>掲出当日は「木津川市市民マラソン」とバッチェィング。木津川市中央体育館の駐車場は使用不可、船公園周辺は通行止め、ポスター掲出場所もマラソンコースのすぐ横…。様々な困難の中、子どもたちは元気でポスターを掲出しました。</p> <p>河川レンジャー事務局の担当者が、早めに現地に入っておられ、現地情報や駐車場所誘導など、大変お世話になりました。</p> <p>現地に掲出後も何度か見回りに行きましたがポスターは無事かかっていました。ブラックバスやブルーギルは特定の愛好者もいるためナーバスな反応があるかと少し心配しましたが、大丈夫そうです。引き続き破損や落書き対策で1カ月に2回程度見回りをした方がいいと思います。</p>

14.3 活動状況



鹿川船公園にて作品の展示作業



マラソン大会が開催される中、作業を実施

14.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>★ポスターを描いてくれた子ども達の感想、目的、工夫した点 康史郎くん「特定外来生物のブラックバス、コクチバス、ブルーギルをくじょしたいという気持ちで書いた。みんながこの呼びかけでたくさんくじょしてくれると思ったから。 慎くん「苦労はデザインやキャッチコピー、バックの色。それとブラックバス、ブルーギルのせいで魚が困っているというのをどう伝えるか」 想くん「外来生物がいなくなっほしいなと思ってつくった」 万葉ちゃん「ブラックバス、ブルーギルをくじょして在来種を守ろうと思った。苦労したことは魚をなるべく本物らしくかけるようにがんばったこと」 ごんちゃんは、これから描くぞという決意表明「ブラックバスなどの外来生物がいなくなればいいなと思ったので作る」 ポスターを持ってきてくれた曜くん、和毅くん、瑞樹ちゃんもありがとう。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>鹿川ポスターに関しては、掲出期間中（～2012年6月）見回りおよび、破損・落書き対応が必要である。 「近畿子どもの水辺交流会」発表に関しては、この後発表ポスターとプレゼンボード、原稿作成をして、2月4日（土）の交流会当日にそなえる。</p>

○山田河川レンジャー活動実施報告

15. 親子川の学校in上狛川出前講座

・平成23年10月2日(日)

15.1 実施状況

テーマ	親子川の学校 in 上狛川		
担当	木津川出張所管内	山田・福井河川レンジャー	
開催日時	平成23年10月2日(日)9:00~12:00		
参加人数	参加総数	72名	
	一般参加者	39名	大人16名、子ども20名、地元参加者3名
	河川レンジャー	2名	山田、福井河川レンジャー
	講師	1名	中 健造氏 (上狛川を美しくする会 世話人)
	協力スタッフ	29名	田中河川レンジャー 大人14名、子ども14名
運営事務局	1名		
スケジュール	8:59	上狛川の採水	
	9:29	レンジャーによるジャンボタニシの説明	
	9:51	今年から始めた上狛川の清掃	
	10:31	タニシの駆除と魚採り	
	10:50	タニシの踏みつぶしによる駆除	
	11:50	上狛川の水質調査(パックテスト)	
	11:56	講師による上狛環濠集落の水環境解説	
	12:15	参加児童から質疑	
	12:18	レンジャーから水質調査結果の講評	
	12:20	レンジャーから今後の活動の参加招致	
	12:25	参加児童による外来種ポスターセッション	
実施場所	木津川市山城支所～上狛川 		

15.2 事前活動

各種資料	(当日配布資料) タイムテーブル、ジャンボタニシミニ知識、子どもの水辺ニュース、水路とまちづくり(中健造氏資料)、親子川の学校たより3号、
関係機関からの支援内容	木津川出張所: パックテストの提供・水質調査記録表の印刷
レンジャーの活動内容	親子川の学校 in 鹿川の水質調査まとめ(親子水辺の学校だより3号用) COD高濃度用パックテスト他・水質調査用ペットボトル・紙コップ・温度計・pH計の準備、調査結果記入用紙作成と印刷依頼

15.3 活動状況



レンジャーによるジャンボタニシの説明



レンジャーから水質調査結果の講評

15.4 意見・課題

参加者からの意見	<p>水質調査出前授業用のアンケートは特に取っていないが、保護者の方々から「小さな子供たちも、少しずつお手伝いができるようになってきました。」という感想が聞かれました。</p>
今後の課題	<p>今回は、「上粕川を美しくする」取り組み報告（中氏）と同時並行で実施するという事で、小さな子供たちを中心に水質調査を実施。きちんとやれるかやや不安があったが、意外と静かに整然と実施できた。しかも、「〇〇をお手伝いできる人」と呼びかけると、子供たち自身が積極的に手伝う姿すら見られた。親子川の学校で何度か水質調査を経験してきた中で、こうした積極性も培われたと思われる。</p> <p>今後、こうした子供たちによる積極性を組織することも大切であると感じた。</p>

16. 木津川一斉水ウォッチング

・平成23年10月8日(土)

16.1 実施状況

テーマ	木津川一斉水ウォッチング		
担当	木津川出張所管内	山田河川レンジャー	
開催日時	平成23年10月8日(土)9:00~12:00		
参加人数	参加総数	60名	
	一般参加者	42名	採水者12名、日本生態学会30名
	河川レンジャー	1名	山田河川レンジャー
	協力スタッフ	16名	山村、福井河川レンジャー やましり里山の会
	運営事務局	1名	
スケジュール	8:23	水ウォッチング会場設営、掲示物と配布資料準備	
	9:27	沿川から採水者到着開始	
	10:48	試薬による水質の判定	
	11:31	採水者自身による水質パックテスト	
	11:45	日本生態学会会員の見学と説明対応	
	11:47	レンジャーによる木津川の生きもの解説	
	11:51	レンジャーによる山城の歴史的景観について説明	
	12:30	一般参加者の受付終了	
実施場所	<p style="text-align: center;">北河原流域センター</p> 		

16.2 事前活動

各種資料	アンケート用紙、木津川が淀川の汚染に与えてきた影響(レジュメ)、水調べて分かる数の見方(レジュメ)、防賀川ワークショップ(告知チラシ)、河川レンジャーNews、やましり里山の会の案内パンフ
関係機関からの支援内容	木津川出張所: 会場借用、アンケートや資料印刷、会場掲示用印刷物の印刷とラミネート、水質調査用機材を含めた物品の搬入・搬出、パックテストの提供 やましり里山の会(共催団体): ユニメーター含め水質調査用器具一式借用、試薬類提供
レンジャーの活動内容	共催団体のやましり里山の会との打合せ(開催要項・取組の具体案の提示含む)、採水場所の確定と明示、やましり里山の会環境部会での学習会、連携協力団体への採水協力依頼と分担、チラシ・アンケート・資料・各種掲示物の作成、当日の展示用パネルの作成や他団体への出展依頼、パックテストの準備、ユニメーターによる水質調査の諸器具準備・補充、水質調査用試薬の注文、前日の機材搬入とパネル・幟掲示等の諸準備

16.3 活動状況



採水者自身による水質パックテスト



日本生態学会会員の見学と水質についてレンジャーによる説明対応



河川レンジャーによる木津川の生きものの解説



屋上にてレンジャーによる山城の歴史的景観について説明

16.4 意見・課題

参加者からの意見

- ・木津川という恵の川を大切に利用できるように家庭生活排水に気をつけて、清流にしたい。今日のような水ウォッチングで、まず意識かけの取組は大切と思います。
- ・木津川の水の状態がわかり、多くの人を知ることにより木津川が美しくなれば良いなあと思う。
- ・雑草やゴミの管理をきちんとし、木津川の水がすぐ近くに触れやすい親しみが感じられる岸边づくりがして欲しい。
- ・川の汚れが色で判って面白い。知っている人が少ないので宣伝が少ないと思う。
- ・狛田地域付近の木津川は、水が少なく雑草が茂っているので川まで遠い。川の近くまで行けない。雑草を刈って、木津川を遊びやすい川にしたい。またいろいろな生き物が生息して欲しい。
- ・歴史的に重要な川として利用されたこと、かつてはもっときれいな水だったのを思い、みんなの力で“泉川”として甦らせればと思います。
- ・木津川は、鳥や植物や水中には魚たちが泳いでいるようなみんなが憩う場所にしたい。
- ・今後の取組としては、一斉に歩きながら勉強し、問題点も感じるような自然観察会(岸边を歩いて・・・)が必要だと思う。
- ・初めて水採取に参加。木津川笠置、打滝川と白砂川合流点、和東川を回りました。美しい水と思っていた水が、洗剤汚染があったところがある。
- ・初めての取組だったので、ユニメーターの操作は始め戸惑いましたが、学生時代に戻ったようで楽しかったです。この取組は、継続して行うことが大事だと思います。
- ・木津川は、水辺まで行きにくい。住民が川を身近に感じるように、水辺に行けるようにすることが必要。魚とり、水遊びが出来るようなきれいな川にしたい。木津川一斉水ウォッチングの会場が良かった。

<p>今後の課題</p>	<p>第1回木津川一斉水ウォッチングは、初めてやましる里山の会と共催で取り組んだ水質調査活動である。今後の課題はあるが、まずは無事大きなトラブルもなく取組を終えることが出来たことは、今後の継続にとって大きな1歩になる。今回の取組の反省を今後に生かし、継続していくことが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への広がりという点では、初めてと言うこともあり十分とは言えない面が残る。連携協力団体は、従来の活動で連携したところを中心に呼びかけ、7団体が採水・展示・当日のスタッフなどの協力を頂けたことは今後の力になると考えられる。 ・後援申請は、実績を出してからと考え、依頼しなかった。今後は、この実績を普及しながら、どうするかを検討していきたい。 ・事前の準備として、ユニメーターの測定者を増やすべく、共催団体の環境部会で学習会に取り組んだ。この学習会によって水質調査活動が何とかやりきれた。今後に向けて、この取組を継続していく基盤を作れたように思う。 ・採水地点の確認は地図上でも可能だが、やはり事前の現地見学が最も良い方法である。その為の時間が取れるかどうかは課題である。但し、継続していくと徐々に場所を確認できるメンバーが増えるので、この点の改善は進むと考えられる。 ・今後の最大の課題は、水質調査の結果を分かり易くまとめ、多くの流域の方々に広報することである。当面、流域の文化祭や各種シンポジウムなどで可能な場合、パネル展示に取り組んでいきたい。
--------------	--

17. 古川生きもの調査隊出前授業

・平成 23 年 10 月 27 日(木)

17.1 実施状況

テーマ	古川たんけん生きもの調査隊水質出前授業		
担当	木津川出張所管内	山田河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 10 月 27 日(木)9:00~12:20		
参加人数	参加総数	10 名	
	学校参加者 河川レンジャー	9 名 1 名	引率教師 1 名、児童 8 名 山田河川レンジャー
スケジュール	8:00	実施の判断を行う	
	8:30	健康チェック	
	9:00	参加者チェック、講師打合せ	
	9:15	出発式	
	9:30	グループ毎に出発、現地での採水と観察開始	
	10:50	採水と観察終了	
	11:00	水質調査とそのまとめ	
	12:10	活動の終了	
	12:10	解散式	
実施場所	古川小学校から南側にむけて荒州北橋付近まで 古川小学校から北側にむけて宇治・城陽の境界線付近まで パックテストは、古川小学校木工室で実施。		

17.2 事前活動

各種資料	古川探検資料（感想文用紙含む） 古川の水質調査用紙
関係機関からの 支援内容	木津川出張所：出前授業での資料印刷。パックテストの提供。
レンジャーの活動内容	10/24 古川の下見、その後古川小にて相方先生と打合せ 古川探検資料と古川の水質調査用紙の作成と印刷依頼 パックテスト・pH計・温度計・柄杓・バケツ・コップなど水質調査に用 いる機材の準備

17.3 活動状況



採水の様子



採水ボトルへの注水

17.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古川は、よごれが多い。調べたりするときとかがむずかしかったです。でもまた水のことでも調べたりしたいと思いました。 ・だんだんCOD 7～9にふえていた。上流から下流に行くにつれて、CODがふえていた。この経験で水のことをいろいろわかったと思いました。 ・古川はっちょうばし左岸はい水路のCODが、20ppmなどのきたない水が出て、びっくりしました。生活で使っている水は、やはりきたないこともわかりました。古川の水でも見た目きれいな水のところもあったので、それはすごかったです。古川の城陽・宇治境界はい水路はきれいな水はそんなにもなかったからびっくりしました。 ・水質ちょうさは、デジカメで写真をとったり、水をとったりして、楽しかったです。古川はっちょうばし左岸はい水路は、とてもきたないことがわかりました。古川下流地点は、意外と(思ったより)きれいということもわかりました。ぼくは、水質ちょうさの古川たんけんには行ってよかったですと思いました。 ・上流と下流で7ppmと9ppmだったのが、びっくりした。 ・CODが7～9にふえている。下流が9になっていた。 ・1番古川あらず北橋がCODが少なかった。1番高かったのは、古川はっちょう橋左岸はい水路と古川はっちょう橋右岸はい水路が高かった。 ・今はじめて5かしの水をとって、パックテストで色がどれくらい変わるかをやって、よごれが1番多いのと少ないのでちがいは13ppmぐらいちがうことがわかった。見た目はきたなくても、調べてみたら思ったよりきれいだったりした。もっといろんなことをしりたいと思った。また水について、しりたいです。
<p>今後の課題</p>	<p>古川小学校の4年生には、この5月27日に出前授業で水質測定の方法を学んでもらったが、今回はその経験を生かして実際の古川の水質調査に取り組んだ。</p> <p>古川の上流荒州北橋付近でCODが7ppm、それが最下流の宇治市境界付近で9ppmと汚れが増加。途中の八丁橋兩岸の排水路が共に20ppm、また更に下流の右岸排水路は9ppmという結果が出た。生徒達は、この結果から下流に行く程汚れが増える原因について、関心を持ち始めたようです。今後、総合学習や理科教育を通じて、この経験や関心を伸ばし、水質保全について考えられる子供たちを育成することが出来ればと思います。</p> <p>そういう意味では、その場限りではなく継続して、総合学習などに関わる機会を作っていくことが大きな課題かもしれません。</p>

18. せいか祭り水質出前授業

・平成 23 年 11 月 20 日(日)

18.1 実施状況

<テーマ:>

テーマ	出前授業・せいか祭り水質調査体験		
担当	木津川出張所管内	山田河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 11 月 20 日(日)9:30~15:30		
参加人数	参加総数	37 名	
	一般参加者	30 名	大人 16 名、子ども 14 名
	河川レンジャー	1 名	山田河川レンジャー
	協力スタッフ 運営事務局	5 名 1 名	精華町環境ネットワーク会議
スケジュール	9:00	出前授業のブース設営・準備	
	9:30	水質調査体験開始(4地点の水から選んで挑戦) パックテストでCOD測定、pH計でpH測定。調査用紙に記入。 適宜、山田川水ウォッチングの展示説明	
	12:30	昼食休憩	
	13:00	午後の部を開始	
	14:30	出前授業の終了とブースの片付けを開始	
	15:30	せいか祭り終了	
実施場所	けいはんな記念公園恵みとくらしの広場ほか 		

18.2 事前活動

各種資料	第 2 回山田川水ウォッチングチラシ(告知)、山田川とその支流乾谷川の水質汚染について(配布資料)、水質記録調査用紙、河川レンジャーニュース 7 月 31 日の山田川水ウォッチングの報告パネル
関係機関からの支援内容	木津川出張所:パックテストの提供、チラシ・水質調査記録用紙・資料の印刷。山田川水ウォッチングの活動報告と水質調査結果報告の掲示物の印刷とラミネート。
レンジャーの活動内容	精華町環境ネットワーク会議との事前打ち合わせ 当日の資料・記録用紙・配布物の作成や準備。展示用掲示物の作成・編集。 パックテスト・pH計・バケツ・コップ比色用紙など水質調査のための器材の準備。

18.3 活動状況



精華まつり出展ブース全景



パックテスト参加者に方法の説明



テスト結果のカラー指標との照合



レンジャーから河川他の水質の状況について説明

18.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>アンケートはとっていないが、小学生から大人まで初めての体験者ばかりで、「水質がこんなに簡単に調べられるとは思わなかった。」「色が変わり、色あわせするのが楽しい」「見た目はきれいでも、汚れが多いときもあるね」などの声があった。</p> <p>また、水質調査パネルの展示について関心を示され、たくさんの意見や質問をされた方もあった。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>精華町環境ネットワーク会議とは、7/31 山田川水ウォッチングを共催で取り組んだ。今回はその成果の上に、せいか祭りでの環境ネットワーク会議のブースで水質調査体験の出前授業を依頼されて、実施することになったものである。また併せて7/31 山田川水ウォッチングの活動報告や水質調査まとめの展示発表も実施された。従って、地域の団体との取組を継続することで、活動内容を発展させることができたのではないかと考えている。</p> <p>今後の最大の課題は、この関係を維持強化するためにも取組を工夫しながら継続することである。そしてその活動を通じて山田川の最大の課題の一つである水質汚染について、如何に流域の方々に広報し、この課題に迫っていけるかである。</p>

19.山田川水質ウォッチング

・平成 23 年 12 月 3 日(土)

19.1実施状況

テーマ	山田川水質ウォッチング		
担当	木津川出張所管内	山田河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 12 月 3 日(土)9:00~12:00		
参加人数	参加総数	9 名	
	一般参加者	4 名	大人 4 名
	河川レンジャー	2 名	山田、山村河川レンジャー
	スタッフ	1 名	やましり里山の会
	出張所 運営事務局	1 名 1 名	清水係長
スケジュール	<p>8:00 水質調査用採水開始（両国橋下流除く 4 地点）</p> <p>8:30 会場準備開始</p> <p>9:40 開会挨拶</p> <p>9:47 レンジャーから木津川の水質概要</p> <p>10:04 山田川現地でレンジャーの説明</p> <p>11:57 COD パックテストの注水</p> <p>12:02 PH 観測</p> <p>12:08 観測結果の記入</p> <p>12:09 山田川の水質講評</p> <p>12:15 閉会</p>		
実施場所	<p>木津川市柘榴(ざくろ)地区集会所</p> 		

19.2 事前活動

各種資料	山田川の冬の水質を調べましょう(レジュメ)、山田川とその支流乾谷川の水質汚染について(成果報告)、河川レンジャーNews
関係機関からの支援内容	・木津川出張所(パックテスト等提供)・精華町柘榴区(集会所使用許可・チラシ掲示他)・やましり里山の会(水質調査器具貸与、スタッフ協力 他)
レンジャーの活動内容	チラシの作成と配布、河川レンジャーのホームページへの掲載依頼、精華町の関係機関訪問、会場の申込依頼と下見、コースの下見、配布用の各種資料の作成、発表用パワーポイント作成、当日朝の水採取(5 地点中、4 地点は事前に汲んでおいた。)

19.3 活動状況



レンジャーから木津川の水質概要



山田川現地でレンジャーの説明



山田川の水質講評

19.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな鳥に出会えた。アオサギ、イソシギ、カルガモ、コガモ、カワセミ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、クサシギなど。もっときれいな川にしたい。 ・カワセミも見れて、よかった。 ・ゆっくりと川のほとりを散策し、川の様子・植物・小鳥・魚などを観察することが出来た。よくご存じの方がおられて、大変勉強になった。 ・鳥や魚が棲む点では、化学物質汚染は減少したのかな？との思いと、水の汚れがひどいには何らかの対策を考えないと木津川を美しくする目標が遠のく。きれいになるように努力したい。 ・初めてウォッチングに参加して、川の様子・川岸の草花・鳥もたくさん見られて、とても楽しかったです。特に野鳥がたくさん見られてよかった。 ・2004年2月の調査に比してCODの悪化が懸念される。水量の比較が出来るよう水深データも併せて観測してはどうだろう。 ・川岸や川の中にゴミがたくさんあることが気になった。もっときれいにしてみんなが憩える場所になって欲しい。 ・今日はたくさんの鳥に出会い、近くの川にこんなに気持ちよく遊ぶ鳥達がいることに自然が残っていることを感じた。
<p>今後の課題</p>	<p>参加者が9名と少なく残念だったが、内容的には野鳥・植物・魚・川の構造物の観察をじっくり実施し、更にCODとpHのみですが水質調査にも取り組み、参加者の方々には満足して貰えたのではないだろうか。</p> <p>とりわけカワセミが2回も出現し、全員が1度は飛翔する姿を間近に見ることが出来た。またモズ、キジバト、コガモ、カルガモ、アオサギ、イソシギ、セグロセキレイなど多くの野鳥が観察できた。植物も、里山の会のスタッフの方から詳しく教えて貰うことが出来、大いに喜んで頂けた。</p> <p>水質調査の結果の詳しい分析は後日に譲るが、ほぼ夏と同じ傾向を再確認することが出来た。ユニメーターによるより正確な測定も行ったので、今後その結果を如何に広報していくのか、また行政へも結果を知らせていくのが課題である。</p>

	<p>前回と比べ参加者が減少した点については、様々な行事の重なりという大きい原因はあるが、今後の教訓にする点もいくつか上げることが出来る。①最大の教訓は、取組が夏の時と違い河川レンジャーがほとんど企画・準備するという状況になった点である。共催である以上、もっと丁寧に精華町ネットワーク会議と計画段階から相談し、一緒に取り組むことが重要であった。②チラシの内容に、今回の特徴となる野鳥観察や植物観察の内容が強調できていない点である。水質調査は川の負の側面を明らかにすることが多いが、川づくりは「川の良さ」を生かしていくことも当然大切である。水ウォッチングは、川の両側面を住民の方々が知り、川づくり考える機会にするべく取り組んでいる以上、チラシの内容ももっと工夫があってもよいと思われる。</p>
--	--

20. 上狛川水質モニタリング

・平成 23 年 1 月 13 日(金)

20.1 実施状況

テーマ	上狛川水質モニタリング		
担当	木津川出張所管内	山田河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 1 月 13 日(金) 13:00~14:00		
参加人数	参加総数	2 名	
	河川レンジャー	1 名	山田河川レンジャー
	協力スタッフ	1 名	中健蔵氏(上狛川を美しくする会)
スケジュール	13:15	調査地点での採水	
	13:50	上狛川を美しくする会の中氏のサポート	
	13:52	pH の測定と記録	
	21:21	水質測定	
実施場所			

20.2 事前活動

各種資料	前回水質調査のまとめ
関係機関からの支援内容	特になし
レンジャーの活動内容	上狛川を美しくする会 中健蔵氏と打合せ 採水用具・pH計・温度計・記録用紙の準備、ユニメーターの準備など

20.3 活動状況



調査地点での採水
上狛川を美しくする会中氏のサポート



pH の測定と記録

20.4 意見・課題

参加者からの意見	一般参加者なし。
今後の課題	<p>上狛川は、昨年夏の7月10日の上狛川クリーン作戦の際に水質モニタリングを実施したが、今回は冬の水質調査と言うことで実施。結果は、夏同様下水道普及の効果もあり、CODが2007冬のデータ(木津高校化学クラブによる)と比べると極端に大きな値はなくなっている。しかしいずれの地点も10ppm以上であり、汚れが激しい状況が見られる。</p> <p>また、全窒素は各地点とも夏に比べ大幅に増加している。この理由として、夏は農業用水として上流の池から一定量の水が供給され、生活排水が下水道普及で減少した分が数字に表れたと考えられるが、冬は池からの水供給が無く、下水道につながっていない生活排水のみが流れているため全窒素が高くなっていると思われる。その証拠に、流れの水が夏に比べ大幅に減少しており、採水地点によっては水を汲むのに支障が出るほどであった。こうしてみると、上狛川の水質改善には、特に冬期は上流の池などからの水の供給が必要なようだ。CODの大きな値も、生活排水のみが流れていることを考慮すれば当然と言えよう。</p>

○木津川河川レンジャー連携活動実施報告

21. 加茂木津川シンポジウム

・平成 23 年 11 月 26 日(土)

21.1 実施状況

テーマ	シンポジウム木津川ものがたり ー山城郷土資料館連携ー第 26 回京都府国民文化祭参加		
担当	木津川出張所管内	山村、福井、山田、田中各河川レンジャー	
開催日時	平成 23 年 11 月 26 日(土) 10:00～16:00		
参加人数	参加総数	188 名	
	一般参加者	170 名	
	河川レンジャー	4 名	山村、福井、山田、田中河川レンジャー
	協力スタッフ	7 名	中川ゆ河川レンジャー 仁枝河川レンジャーアドバイザー やましる里山の会
	その他	5 名	木津川市加茂文化ホール職員 山城郷土資料館職員
	淀川河川事務所 運営事務局	1 名 1 名	芝田監督官
スケジュール	<p>9:59 展示会場準備</p> <p>11:02 レンジャーによる訪問児童への説明</p> <p>12:07 レンジャーによる展示解説</p> <p>13:18 福井河川レンジャー講演</p> <p>13:34 山村河川レンジャー講演</p> <p>15:50 シンポジウムによる討論</p> <p>16:29 展示会場撤収</p>		
実施場所	<p>木津川市加茂文化ホール(あじさいホール)</p> 		

21.2 事前活動

各種資料	河川レンジャーNews、防賀川ワークショップ成果報告、里山の風にふれてみませんか
関係機関からの支援内容	<p>山城郷土資料館によるチラシ作製、チラシ配布</p> <p>淀川河川事務所・・・河床低下資料提供、木津川航空写真提供</p> <p>木津川今昔資料</p> <p>木津川出張所・・・展示ポスター印刷</p> <p>上流域センター・・・木津川今昔資料集め</p> <p>淀川資料館、イタセンパラ研究会(小川力也氏)水生生物センター・・・イタセンパラ資料提供</p> <p>日本野鳥の会京都支部・・・イカルチドリ、シロチドリの写真提供</p>
レンジャーの活動内容	<p>山城郷土資料館との打ち合わせ 3 回</p> <p>木津川ものがたりシンポジウム ロビー展に向けての会議</p> <p>ロビー展展示物の作成、シンポジウム「木津川が育んだ自然」発表資料作成</p> <p>展示物前日準備、展示、当日の発表、後片付け、反省</p>

21.3 活動状況



河川レンジャーによる児童への説明



河川レンジャーによる展示解説



河川レンジャーによる展示解説



福井河川レンジャー講演

21.4 意見・課題

<p>参加者からの意見</p>	<p>展示物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木津川の魚、鳥、水質、河床低下、木津川今昔、レンジャー活動の紹介など木津川の自然、移り変わり、問題点などが整理されてよく分かり、大変興味深く見せてもらったという感想が多かった。 ・木津川の過去の写真は特になつかしく見る人が多く、それぞれの人の木津川との関わり、思い出がパネルの前で語られていた。 <p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木津川の自然を一番の特長である砂との関係で説明し、豊かな自然を守っていくために手を入れていく必要がある事を訴えたのだが、自然の豊かさ、問題点などがよく分かったという感想をいただいた。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史研究者、歴史愛好家という人たちとの交流の機会は今まで少なかったが、今回の取り組みで木津川の現状と河川レンジャー活動を知ってもらう事ができ、今後の繋がりができたことは大きな成果であった。 ・ロビー展のために展示物を作成したが、テーマを設定し、資料を集めて作成したので今までにないよいポスターができた。また、各関係機関に資料を提供してもらい、繋がりもできた。
<p>今後の課題</p>	<p>様々なところで木津川の現状を訴える機会があれば、積極的に発表、展示を行い、木津川に感心を持つ人たちの輪をさらに大きくしていくことが大切である。</p>

22. 沿川活動団体交流会

・平成 24 年 1 月 21 日(土)

22.1 実施状況

テーマ	木津川沿川活動団体交流会		
担当	木津川出張所管内	山村・福井・山田・田中河川レンジャー	
開催日時	平成 24 年 1 月 21 日(土) 13:00~17:00		
参加人数	参加総数	54 名	
	一般参加者	8 名	大人 5 名、子ども 3 名
	沿川団体参加者	22 名	やましる里山の会 12 人(スタッフ除く) 古川を美しくする会 1 人 野鳥の会 2 人 加茂の森林守隊 1 人 城陽生き物調査隊 1 人 こどもエコクラブポッポ 5 人
		4 名	山村・福井・山田・田中河川レンジャー
		2 名	角 哲也(京都大学防災研究所) 小川 力也(イタセンパラ研究会会長)
	河川レンジャー	6 名	中川ゆ河川レンジャー やましる里山の会
	講師	1 名	河合 典彦氏
	協力スタッフ	2 名	京田辺市役所、木津川市役所
淀川環境委員会 自治体	8 名	淀川森川所長、環境課坂本氏、木津川井上所長、清水係長、布目ダム田村所長、高山ダム佐瀬氏、アジア航測 2 名	
河川事務所、木津川出張所 ほか	1 名	運営事務局	
スケジュール	11:04	開会前の会場設営	
	12:32	レンジャーによる会場前の掲示説明	
	13:08	レンジャー・里山の会理事長による主旨説明	
	13:33	講師による木津川の土砂の動き講演	
	14:04	質疑国交省森川所長	
	14:46	講師によるイタセンパラ講演	
	15:04	質疑参加者	
	15:56	参加団体活動発表	
	16:10	レンジャーによるまとめ	
	16:33	レンジャーの呼びかけによる閉会后フリートーク	
実施場所	京田辺市中央公民館		
			

22.2 事前活動

各種資料	木津川沿川活動団体交流会チラシ、当日プログラム、アンケート記入用紙、質問用紙、小川講師レジュメ、木津川展チラシ、久世地区の川や水路の漁業、河川レンジャーNews、やましる里山の会パンフ
関係機関からの支援内容	木津川出張所…自治体等への後援申請の郵送、チラシ・アンケート・資料等印刷、運営委員・流域団体への案内郵送 やましる里山の会…当日の受付・準備スタッフ
レンジャーの活動内容	企画作り、講師の依頼と打合せ、自治体等への後援申請、チラシ・アンケート用紙作成と印刷依頼、当日資料の印刷依頼、受付用紙の準備、進行プログラムの検討と作成、展示物の準備と掲示、会場案内の作成・掲示、会場準備

22.3 活動状況



レンジャー・里山の会理事長による主旨説明



講師による木津川の土砂の動き講演



講師によるイタセンパラ講演



参加団体活動発表



レンジャーによるまとめ

22.4 意見・課題

参加者からの意見	<p>第1部 基調講演「ダム下流の河川環境変化と対策について」</p> <ul style="list-style-type: none">・河床低下の問題点がよく分かった。川についてこのように問題があるのを初めて知りました。(一般参加者)・木津川に堰を作るのはGOOD と思いました。(一般参加者)・今起こっている木津川、ほかの河川の土砂の問題を分かりやすく教えてもらえて勉強になりました。(エコクラブ)・何が目的で下流への砂を運ぶのかを明確にすべきだと思います。(里山の会)・ダムはできるだけ造らないようにする。ダムを造る時は砂をためない構造、システムを考えて造る。(里山の会)・木津川の環境変化についての歴史がよく分かった。(里山の会)・木津川の河床低下は支流に作られた砂防えん堤も関係していないでしょうか。(加茂の森林守り隊)・土砂を上手に流すことにより淀川水系全体が大きく変化すると思います。上手な土砂の流れを。(レンジャー)・河床低下の原因の四分の三がジャリ採集だとは。中流部の河床低下はこれからだと聞き、びっくり。山城町、井手町、城陽市側での高水敷が激しく削られている現場をよく見るので気になります。中流でも河床は1m ぐらいは下がっているように思います。置き土をしても枚方で土砂をとる限り砂は流れてしまいます。何箇所かに砂防えん堤を作って砂を流さない仕組みを作る事も必要だと思います。(レンジャー)
	<p>第1部 意見発表「木津川とイタセンパラ」</p> <ul style="list-style-type: none">・イタセンパラという魚を初めて知りました。分かりやすく説明して頂きよかったです。(一般参加者)・貴重な魚がいたことを知りませんでした。でも、変わったおもしろい魚ですね。(一般参加者)・密猟で少なくなったとは残念でならない。(一般参加者)・小川先生の講演を一度は聞いてみたいと思っていたのですが、専門的な会合の講演だったら難しいだろうなあと感じていました。今日は分かりやすく色々ともっと教えてもらいたかったです。(エコクラブ・ポッポクラブ)・イタセンパラの生態についての説明を聞き、他の川魚についても興味を持った。(里山の会)・昔からの自然に近い河川にすることが必要。人間が川を悪くしている。(里山の会)・イタセンパラが天然記念物に指定されている理由は何か？(里山の会)・淀川より生息しやすい木津川でイタセンパラの復活を頑張してほしい。(レンジャー)・イタセンパラの事がとてもよく分かりました。私が川に本格的に入りだした時がイタセンパラの密猟で激減した時でしたのでとても残念。イタセンパラの復活とは「たくさんの魚が生息できる川環境復活」という意味で魚たちのシンボルで、イタセンパラを通して多くの方が川環境に興味を持ってくれたらと思います。復活には「密猟対策」が必須条件。タマリを刈で囲むしか方法はないですね。とにかく飼育して増やして色々なタマリに広げていくこと。密猟されても生き残れるほど増やすことです。そして、溜り、ワドの環境を人為的であってもよくしてやることです。河床低下が止まるのを座してまっています。(レンジャー)
	<p>第2部 分散会での活動団体・参加者交流</p> <ul style="list-style-type: none">・これからは問題意識をもって川を眺めてみたいと思いました。(一般参加者)・できれば活動団体(参加者)の名簿があったらいいなと思いました。(里山の会)・来年に向けての提記をするべきではないでしょうか。(里山の会)・もう少し時間を多くとって交流をするといい。(レンジャー)

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年木津川、支流で活動している市民団体の参加が少なく交流が深まらなかった。しかし、ダム関係者の発言など普段聞けない話も多く、講演の内容も多くの方の心にしっかりと入り木津川、伊セソラに関心と理解が深まった内容の濃い交流会だと思う。しかし交流会の持ち方は難しい。(レンジャー) <p>3. あなたの木津川に対しての関心事はなんですか?(問題点・ご意見・川への思いなど・・・)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々へのPRが重要と思いました。精華町では市街地が川から随分離れています。(一般参加者) ・木津川の環境保全について今後も官民あげて取り組んでいく必要性を感じた。(里山の会) ・淀川を見て木津川を見ているからその自然や生きものの豊かな木津川の素晴らしさがよく分かります。以前少し伺ったのですが、淀川は今もヌトリアが10匹くらいいるのですが、「カムラ」の看板が見えるところへんの右岸のところ二枚貝の殻がいっぱい落ちています。ヌトリアが貝の味を覚えてたらしいです。大丈夫かしら・・・(エコクラブ・ホッポクラブ) ・木津川の何をもって再生と言うのか?(里山の会) ・河川レンジャーさん、これからもお願いします。(里山の会) ・河川環境には里山の影響も大きいと思いますが、里山を元気にする活動をして8年目になりますが、当初私達に助言をし、山の活動場所を提供してくれた方々が昨年亡くなられました。70~80才まで自ら森の整備をしていた方々なのでこれからもっと山が荒れるのではないかと心配しています。(加茂の森林守り隊) ・琵琶湖が万が一の事があれば淀川水系の人間にとっては木津川がたよりです。頑張っていたきたい。(レンジャー)
<p>今後の課題</p>	<p><まとめ></p> <p>ダム管理者、淀川からの生物・環境の専門家など上流から下流までのそれぞれの専門家の参加があり、情報交換、交流において画期的であった。</p> <p>また内容的にも、木津川の現状と原因・解決方法などが基調講演や質疑交流の中で明らかになり、今後の木津川の川づくりを考えていく上でも大いに学ぶものがある素晴らしいものとなった。</p> <p>しかし市民団体が昨年より減少(6)し、交流という点では不十分となった。この原因は、行事が重なったり、新しい地域組織との関係が構築できていないことがある。</p> <p>参加者の総数は、50名余とほぼ昨年と同じであったが、一般参加者が少ないようだ。チラシを見ての参加者があったが、新聞を見てきたという人はいなかった。これは、この企画名称が沿川活動団体交流会となっており、一般参加者にはやや場違いという印象となっているのかもしれない。</p> <p><課題></p> <p>最大の課題は、今回の交流会で学んだ木津川の現状と原因・解決方法などを下敷きにして、如何に住民参加の木津川づくりを具体的に進めるかである。</p> <p>また交流会については、交流の仕方、参加団体を増やすなど考えていく必要がある。</p>

○河川レンジャー連携活動実施報告

23. 京都環境フェスティバル 2011

・平成 23 年 12 月 10・11 日(土・日)

23.1 実施状況

テーマ	京都環境フェスティバル 2011	
担当	京都府域出張所管内	河川レンジャー
開催日時	平成 23 年 12 月 10・11 日(土・日) 9:00~16:00	
参加人数	参加総数(2日間)	約 1000 名 (別途河川レンジャー等 23 名)
	一般参加者 河川レンジャー	約 1000 名 8 名
	淀川河川事務所	11 名
	運営事務局	4 名
スケジュール	1 日目・2 日	<p>9:00 スタッフ集合(京都パルスプラザ出展ブース内)</p> <p>10:00 京都環境フェスタ開催 【パネル展示】三川合流パネル・解説 木津川管内活動紹介・解説 淀川の 100 年の変遷がわかるパネル展示・解説 【工作】ヨシタペストリー・ヨシ笛・オニグルミストラップ作り</p> <p>16:00 閉会・片付け</p> <p>17:00 終了・解散</p>
	2 日目	<p>13:00 木津川管内河川レンジャー主催「おいでよ木津川へ！」練習</p> <p>14:00 別会場にてワークショップ開催 「楽しかったよ、親子川の学校。きれいな木津川をとりもどしたい」 ：田中レンジャー</p> <p>14:20 「木津川が育てた自然」：福井レンジャー</p> <p>14:30 「NPO 法人やましろ里山及び木津川について」：山村レンジャー</p> <p>15:00 ワークショップ終了</p>
実施場所	<p>京都パルスプラザ(京都府見本市会場)</p> 	

23.2 事前活動

各種資料	<ul style="list-style-type: none"> ・河川レンジャーNews NO.18・19 ・桂川クリーン大作戦 ・価値ある水辺を創る鶴殿を遊ぶ ・河川レンジャー発見・養成講座案内チラシ
関係機関からの支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・淀川河川事務所 ・NPO 法人やましる里山の会
レンジャーの活動内容	<p>木津川一斉水ウォッチング(10/8)の水質調査結果を汚染マップとしてまとめ、展示パネルとして掲示。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 展示コーナーで体験工作に使用する材料、道具の準備 2. 体験工作のヨシタペストリー、ヨシ笛などのサンプル作成 3. 活動実施（来場者の体験工作の補助、アドバイス、見守り実施） 4. 終了後の清掃

23.3 活動状況



工作体験（オニグルミストラップ）



レンジャーによる展示パネルの解説



ワークショップ「楽しかったよ、親子川の学校。きれいな木津川をとりもどしたい」田中河川レンジャー



「NPO 法人やましる里山の会及び木津川について」山村河川レンジャー

23.4 意見・課題

参加者からの意見	<p>特にアンケートは取っていないが、葎笛作りやクルミのペンダントづくりなど体験コーナーが人気であり、親子一緒に参加され「とても楽しい経験ができました」と感謝された。</p> <p>短時間で簡単な工夫で出来る体験工作は子供にはありがたい。</p> <p>ヨシのタペストリーに於いては参加者の希望の寸法で作成したい方が多い様である。</p>
今後の課題	<p>展示内容は工夫して作成したつもりだが、体験コーナーに比べると参加者の関心が少ないのはやむを得ないことかもしれないが、やや残念であった。ただ多くはないが、非常に熱心にパネルをご覧になり、質問をされる方もおられた。特に、木津川の地図に旧跡を書き込んだ巨大パネルは、熱心に見入る方が目についた。このパネルは、今後いろいろな場面で活用できるのではないだろうか。</p> <p>コーナー壁面のパネル展示は詰め込みすぎて、視覚的に興味を持って近づく人が少なかったように感じた。</p> <p>何回か参加されて居られる方には、次の段階を講習しても良いのでは。もう少し、広報に力を入れても良いのではないかと思います。</p> <p>今回、様々な関係で参加のブースが減少している様ではあるが、何回か参加をする事により顔なじみも出来、レンジャー活動に良き繋がりとなって来ています。レンジャーも、もっと参加をするべきではないか。</p>